明治三十一年十月廿五日

女學雜誌

第四百七十四號

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

第四百七十四號目次

◎社說
御信任論
君侯のお爲と勤王家
獵官熱解藥

◎隨感
靈光り靈覺る○宗教界の噂道○調鶴家に上る○
慨然立志○感激

◎女學
女性の兩面
女學生の雜話
女子の犯罪（靜濶居士）

◎評論
北米民主共和政の末路（靑柳猛）
（聯邦帝國とならん）

◎敎育
敎育界の新機運　曲浦釣夫

◎雜錄
美神の靈影　靑柳有美
亡弟の寫眞に歎す　おうそむ

◎時文
時文雜評　なにがし
（坪内逍遙氏○巖谷小波氏○漣山人と幼兒○
俳諧雜誌ほとゝぎす）
寒鍋の枯柳○島崎藤村の新作○日本名婦記

◎片々◎時報

社告

◎本誌は毎月二回即ち十日、二十五日の兩日を以て發行す

◎十日發行の分は稍や平易實際の記事を專にし、第一、家庭の整理改善に益ある可き事項を主として、其他、文藝、史傳、問答等の諸欄に重きを置き、二十五日發行の分は、女學宗教及び教育等に對する吾黨の卑見を陳述し、大に世上君子に問はんとするを旨とす。

◎單に十日發行の分のみ又は廿五日發行の分のみと指定して所望せらるゝものあらば其の需めに應ずべし

●女學雜誌定價表●

前金

壹冊定價　拾錢
半年分定價　壹圓拾錢
一年分定價　貳圓
（內國無郵稅）

代金は總て前金にて御注文ありたし◎年來引續購讀の諸君にて前金切れ候共御斷無之間は引續き發送することも可有之事

廣告料

一行（廿七字詰）一回　前金拾錢
同　三回以上　一割引
同　六回以上　二割引

送金

送金は東京駒込郵便支局に宛て小爲替にせられたし○郵便切手にて送らるゝ人は總べて一割増にて計算せられたし

明治三十一年十月廿四日印刷
明治三十一年十月廿九日發行

發行兼編輯人　巖本善治
印刷人　布川孫市

東京府北豐島郡巣鴨村字庚申塚二百四十六番地
發行所　女學雜誌社

東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地
印刷所　株式會社秀英舍第一工場
（電話本局十九番）

社告

櫻井成明譯
緋立比物語　正價金二十八錢　郵稅金六錢

橫山雅男著
婚姻論　正價金十二錢　郵稅金四錢

池袋淸風著
淺瀨の波　第一篇二冊、正價二十八錢　第二篇同　郵稅一篇各々六錢

◎前號第四百七十三號（十月十日發行）要目

社說「家庭訓に於ける忘の一字」◎當今女學の短處（女學生の活智を育せず）◎家庭「繼母難」◎內辨慶●暗室の女權◎史傳「德川氏の勤王」◎血統を重ずる今昔の妙對◎文藝「文字と情」◎雜錄「巣林子の「堀川浪の鼓」」◎時流草語三則◎隨感四則◎

巖本善治著
我黨の女子敎育　正價金十錢　郵稅金二錢

故鈴木弘恭述
百人一首講義　正價金二十八錢　郵稅金四錢

同
文法口授　正價金十二錢　郵稅金二錢

大賣捌　京橋區采女町　警醒社

女學雜誌社

スペンサー氏著
藤井宇平君譯

綜合哲學原理

四六判八百卌餘頁クロース表紙
定價金二圓卌錢

新版割引發賣 本月卅一日迄 **郵稅共金壹圓** 同日以後は定價に復す

人間智力の達し得る最高知識是即ち哲學の本領、本書は十九世紀後半の大哲學者、大思考家スペンサー氏が該博の識、深遠の想を以て演繹歸納兩法により精確なる科學の基礎の上に構成せる夫の有名なる綜合哲學の根本原理を包含する所の哲學原理にして、至廣至大なる天體より至微至細なる蟲類に至るまで宇宙を網羅し、又事物の現在、過去、未來を包括する所の大原則を探究し、進化を以て森羅萬象萬事萬物の普通法則なりと論定し、天文、地質、生活、人心、社會、政治、産業の起原發達を論述し、言語、文字、文章、文學、科學、詩、繪畫、彫刻、音樂、舞踏等の進化の法則を説明す。而して氏著述の特色は事物の原理を何人も解し得るが如く極めて平易なる言語を以て論述するにあり。氏は最も高尚なる理を説明するに最も卑近なる例を以てし、最も困難なる議論に挿入するに最も珍奇なる事實を以てし、其の例を擧げ譬を引くの自在なるとに至ては何人も摸倣する能はざる所にして、規則上同一の權力を附與せられたる取締役の中に實際權力の相違を生じ、實業家晩年選ばれて國會議員となる等の事實を宇宙の大則より説明するが如き人をして其の巧妙を驚嘆せしむ。本書は實に哲學家、宗教家は勿論、科學家、技藝家及び苟も事物の根本原理を知得し、高尚深遠なる思想を養成せんと欲する者は一讀すべき大著述なり。且本版には附錄として、スペンサー氏が其の知友ニユーマン敎授の需に應じ特に起草せるスペンサー氏全哲學系統の神精を含蓄するス氏綜合哲學大綱領を譯載したれば、讀者は之によりて數分間にスペンサー氏哲學上の大主義等を知了することを得ん。

左に書中の章名數個を擧げて參考に供す。

宗教と科學○最終の宗教的觀念○最終の科學的觀念○凡ての知識は相對的なり○宗教科學調和論○哲學の定義○哲學の基本事實○物質の不滅○進化の法則○等々

卅一年十月發行所

東京市京橋區彌左衛門町七番地

合名會社 **經濟雜誌社**

平田骨仙君撰

五十名家語錄

定價廿五錢
郵稅金四錢
郵券代用諸

勝海舟大井憲太郎伊藤博文田中正造島地默雷近衛篤麿井上哲次郎谷干城大隈重信伊東巳代治品川彌二郎渡邊國武副島蒼海等を始め現今我國に於ける學者政事家宗教家慷慨家才人等五十名家の眞面目は收めて本語錄中に在り、地山之石可以磨玉、正面より側面より將た反面より人事に處する所以の旨趣味を會せんと欲するものは、必ずや本書を讀まざるべからず、今や讀書に最好の時、敢て榜して汎く世に布く所以なり

吉本襄撰

氷川清話

勝海舟伯、氣、一世を蓋ひ、眼、古今を空ふす。其の片言隻句も經國の資、修身の戒たらざるは無し。本書は即ち伯の語錄にして、政事談あり、豪傑談あり、文學談あり、處世談あり。讀み去りて個の老偉人の書中活躍するを見む。

—◁▷—

正編第七版續編第四版定價卅錢宛郵稅四錢宛正續同時購求は一割引 諸郵券代用

陽明學

陽明學は簡易截の學也。簡易なるが故に入り易く直截なるが故に行ひ易し。以是古今豪傑の士は大抵斯學を修めぬ。諸君試みに一讀せよ。

—◁▷—

改版初號發行定價一冊拾錢郵稅每冊一錢每月廿五日定期發行 見本は一錢郵券拾壹枚送れ

東京牛込區築土前町三十番地

發行所 鐵華書院

發賣所 東京堂 北隆館 東海堂 上田屋 服部 有斐閣 ○大阪東久太郎町中井書店 其他

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

故若松賤子女史譯述

小公子

全一冊洋裝美本
紙數三百五十頁
正價金三十五錢
郵税八錢

近代欧米の讀書社界を震動し、劇場に演ぜらるること數十回、一代の流行を左右して一時年少の子をして悉皆小公子の如くならしめしと云ふは、此書原本奇代の勢力なり。純潔無邪氣、天使の如き一少年は、頑陋執拗の老侯爵を感化し、傍に降あり、母に佳人あり、貧しきを憐み、小作者を愛撫し、言行總て甘露慈雨の如し。讀去り讀來るうち讀者亦自から化せらるるを覺ゆ、何ぞ其の可憐高潔なるや。少年固より讀まざる可らず、婦女老年亦讀まざる可らず。賤子女史嘗に其前篇を譯して世に公にするや、譯文の巧妙を以て亦た一時に喧傳す。森田思軒居士之を以て明治年間譯文の最上乘のものとし、激賞措かず、曾て其第一回を見て忽ち驚き、一夜通讀、曉に徹し遂に卷を釋る能はざりしと云へり。然るに女史其後篇を公にするに及はずして不幸長逝し、知人愛惜の情を寄せらるること切なり。即ち玆に其遺稿を收め、女子が一周忌日に付せんとして前後二篇を合せ刊行せしむ。其友湘煙中島女史は序を題し、郷友松井昇氏は挿畫を附せり、同好の士、希くは一讀を賜へ。

出版元　東京日本橋區本町三丁目　博文館

大賣捌　東京巣鴨村庚申塚　女學雜誌社

布川靜淵　小此木信一郎二氏合著

俳諧史傳

和製美本　紙數三百二頁　中本全一冊
定價廿七錢　郵送　四錢宛　許郵券代用

俳諧の道近頃大に興り、前年此書を公刊せし吾社の微志をして幸に謝いあらしむ、幸慶何ぞ及ばん。それ、俳諧は我文學史上に一大特殊の光明を煥發す、一句十七音、尺幅の裡、無限の烟波渺々として際なし、俳諧は和歌に孕まれ、連歌に興り、松永貞德となりて、西山宗因となりて、諧謔を擅にし、更に詩聖松尾芭蕉の大手腕をかつて、閑寂沈痛なる正風俳諧の面目を構成す。數百年の間相傳へ、相磨きて庶民の美妙なる想念を蕩せしめ、幽妙なる詩天地に消遙す。其源流に溯り、其發達を叙し、其推移を討ね、其變遷を記し、其特想を論じ、縮成一冊、炳焉として斯文學を闡究に活現せしむるを期したるは、我が「俳諧史傳」なり。之を分てば、俳人個々の傳記となり。之を聯れば、整々一卷の史篇となす。逸事あり、名句あり。一篇の下、煥々乎として、月明かに花香しき境に遊ぶが如くならしめむ。若し夫れ一筆謹々に下さず、一字苟もせず、而も文章平易簡明、叙記精確剴切なるや否やは、世自ら公論あらむ。世の文士、一本を座右に備へざる可からず。

早稻田文學評に曰く、此書近年の好著、此較的にいへば、空前の好俳諧史傳なるべし、史眼の頗る濶大なる、叙事評論の其主題と相叶ふて優美、又閑雅、奇警、又遒勁なる、讀むものをして卷を措く能はざらしむるの致あり。

出版發賣元　女學雜誌社

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌

第四百七拾四號

明治三十一年十月廿五日發兌

社説

御信任

近時往々にして聞く事あり、世上の新聞雜誌時として奇怪の言を放つ。曰く、某、某の上に於ける帝室の御信任なしと。是れ抑そも何ものの言ぞ。

大凡そ彼等政爭黨伐の士の言行ほど忌はしきはなし。本來其の要求する所は何ものぞゝ。須からく其の覆ひを取除き、其飾りを剝ぎ、赤裸々、眞面目の儘に在躰に白狀すべし。遂に自から勢利功名を握らんと希ふの故耳にあらずや。何すれぞ其の言ふ所ろの陋劣にして、其の愼しむ所ろの踈慢なるや。

惟ふに、彼等が絶叫の聞かれんとを望むべき中立靜穩の士は、當に耳を掩ひ、面を澁らせて、其聲に嘔吐すべし。

彼等曰く、帝皇の御信任欠けたりと。汝が輩、抑そも如何にして之を知りたる。

昔しは、優柔放埒の大名あり。茶坊主偏へに其の機嫌に適はんとし、一咳、一聲、一顰、一笑の微に注意して、好惡愛憎を察せんとせり。お附女中の言ふ所により、こし元、近侍の見る所により、晝夜細々の視察を怠たらず。彼等が所謂ゆる、御機嫌を伺ふの手段は大率ね斯の如かりしのみ。これ豈に大丈夫の爲すべき所ろか。況んや、更に、光々明々たる振古絕代の賢皇に對して、豈に些少だに此般の不敬あるとを許さんや、よし假りに、彼輩をして、其の豆の如く小さく、蛇の如く邪しまなる眼光相應に 或は多少の伺察を遂げ得たりと見做さん。抑そも、此の遂げ得たる伺察を天下に廣言し、劣夫劣漢の際に在りふれたる句調をもて、某は御信任を蒙むれり、某は御信任薄しなど言はんの結果は、抑そも如何んの利益ありと思ひ、又果して如何んの害ありと云ふとを知るある乎。嗚呼、此輩、君主に對するの忠誠は、如何の情操ぞ、吾人頗ぶ

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

る解するに苦しむ所也。
證し、政爭黨伐の如きは、畢竟兒戯のみ。試ろみに大觀せる烈士をして見せしむるも、嘲然として一笑せんのみ。況んや博愛太公の君主、一天万乘の吾皇にして、抑そも、誰を信じ、誰を疑がひ玉ふの差別かあらんや。彼等が爭ふは、兒戯の喧嘩の如し。其の欠點は愛子の片環の如し。何れを悪みて何れを責めん。斯の如きは、元と、人上に立ち、慈愛を主とするもののなべての情懐なり。ましてや、吾皇、絶代の英明と非凡の大悲とを以て君臨せさせ玉ふの時に、如何なれば、汝が輩、かゝる僻みを出すぞ。

左りながら、一事の思ひ當たるとあり。彼の兒輩が互ひに喧嘩して父母に訴ふるの時、やゝともすれば、誰は多く信ぜられ、誰は少なく信ぜらると誤解し、而も就中、吾が方の多く愛せられ居るように思ふ僻み者なきにあらず。斯の如き子供に限りて、邪推多く、嫉妬多く、以て人に誇り、以て人を虐たぐるとの多きものなり。左れば、彼等にして若し一日寵の衰ろへたるように感ずるとあらば、直ちに矛を倒さまにして其の恩人を呪ふ。邪推と嫉妬は相隣りし、誇りと、虐たげとは相接す。其の如何にも面白からぬ僻み根性は、家庭の平和を破りて、あらゆる騷動の元をつくる。彼等は所詮、親の慈愛を覺り得ざるもの也。如何なれば斯る卑劣の根性を起すや。未だ稚子にあらじ、何すれぞ自から僻みて、此の曲陋に入らんとするぞ。

惟ふに、彼の君寵を誇るものは、他日、君寵を嫉むもの也。稍ともすれば、御信任の厚薄を比較し、之を以て人の價値を定めんとす。陋劣何んぞ甚しき、不忠何んぞ甚しき、彼等は到底一天公明の大量を察度し得ざるもの也。

且つ夫れ、某、某々の上に御信任なし」と宣言するの利益は何事にある乎。信任なき者の上に信任の姿を装はせ玉ふと斷定する利益は何事にある乎。彼等は、天日を暗しとし、暗きものゝ假りに明るしと云ふのみ。其の言ふ所以の到底の影響は何事にある乎。思はざるも亦た甚しからずや。

然りと雖ども、今にして御信任云々を言ふものは、其の言ふもののみの罪にあらざる也。殆んど今の政黨員大躰の罪なり、亦何んぞ彼等二三子をのみ責めんや、夫れ二三子をのみを責めず、此を以て遂に一言なき能はざる也。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

何の故に、政黨員大躰の罪なりと云ふ乎。他なし、今の政黨者は皆な屡ば此類の言を放ち、以て互ひに増減せんとするとを止めざれば也。伊藤侯は常に自から揚言して曰く、御信任あつしと。其自賢の躰、笑ふべく、憫れむべし。此人にして既に然り、何んぞ其后輩の屡は同病に陥いるを怪しまんや。亦之に反抗する一派の政士は、甞て、宮内大臣論を掲げて其御信任を問はんとせり。彼等時に諤々として而も究極する所の何の不利益に歸するやを考へず。單に敵黨を究迫するに迫りて別に顧慮する所もなかりき。特に知らず、當年の失計日ならずして輪廻し、今や亦た敵黨によりて、御信任の有無を以て問はれんとす。總へて是れ互に汝より出だして亦汝に反すものにあらずや。

嗚呼、滔々たる此等の言議皆な非なり、何すれぞ高天大慈一視同仁の信任を厚薄して以て見號の爭に利せんとするや。赫たる太陽は超然として浮雲の上にあり、一樣に光明を照し、一樣に慈温を下す。喧々たる汝頑愚の兒孫、須からく其の爭そひを同號の際みに止めべし、苟しくも高天を仰いで無禮なる是非の言を弄する勿れ。

君侯のれ爲と勤王家

◎政治家が政事を施こす氣品の高低は、古今何れが上品である乎と云ふ一問題を掲げ、試みに今の論客に聞いて見たいと思ふとがある。

◎夫は無論、比較にはならぬ。昔しの政治家は只だ藩あるとを知つて、國家あるとを知らぬ。偶たま、國家あるとを知るものも、世界あるとを知らぬ。其の政治と云つても、壓制極まるもので、毫しも民の自由權を認めぬ。其の學識の淺海で、國家復雜の器關を知らず、ホンノ撫付けの仕事ヨりで、大いに富國育民の經綸を施こすなどの抱負は殆んど無つた。眞とに幼稚極まるもので、中々今の立憲時代の政治家などに比較すべきでない』と、只一概に論じ去るが、今日在り觸れた評判らしく見へる。

◎成程、學問の雜多なと、場面の廣ろきとなどから言へば、今の政治家は昔しのよりは力があると言つて宜しからふ。其見識も中々開けたよふであるが、夫は世が進んで珍らしい道具が多く出來るのと同じ様なるとで、必らずしも品格の性質

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

に就いて言ふたとではない。茲に吾人の言ふ所は、其の氣品の事で、政治家が政治を爲す心掛けの品格は、古へと今と果して何れが上品であるか。即はち、其の政治を執る覺悟の道念は、古今、何れが高尚である乎と云ふ一事に付いて聞たいのであるが、殘念乍ら吾人は今の多數の論者と從ひ、政治の品格は反つて昔しの方が高尚であると認めて居るのである。

◎凡そ、心掛の高尚なるは、利己の爲めにせずして、利他の爲にすると云ふとである。たとひ、一世を振ふ如き八釜しい大事を成したりとも、其心掛けは必竟自分の爲めを思ふて爲たのであると分つたらば、少しも有がたくない。寧しろ、匹婦小兒が、眞心をこめた殊勝の小さき事業の方が、品格は優れて居ると言はねば成らぬ。たれば、政治家の政事も、其の抱負の偉大なる、其經綸の周密なる、其の伎倆の老練なるとあるに係はらず、もしも一點功名の心に役せられ、本來無用の業を起し、單に其の名を成すと云ふ一念に驅られたのであると知れたらば、其の燦爛たる高名の聞くに堪へぬとどなるのである。心掛けの氣品と云ふとを大切にするのは、斯る暴慢なる精神より事を起すか否やと云ふとを見たい柄である。

◎然るに、昔しの政治家、就中、徳川氏の政治家などは、第一に、お家の爲め、君侯の爲めと云ふとを、心掛の絕頂とした。當時は京都に一段高き御方のましますに係らず、陪臣なれば、其邊に精神を捧げるともせず、世界に廣き列國あるに係らず、鎖國なれば、其方に氣を向けるともせず、或る意味から言へば、眞とに狹隘であると言はねば成らぬとは無論であるが、兎に角、其の日夜奉公の士臺となり、忠勤を抽んで身命を献じて居る精神の基礎たるものは、君のお爲め、君侯のお爲め、お家の爲めと云ふとで、其の心掛に二念はない。如何にも凜烈誠忠なるもので、彼等が政事を執る主旨に、毫しも、我身勝手の所ろがなかつた。即はち、政治を執る心構えは、眞とに殊勝で、其品格は申し分なき純潔のものであつたと言わねば成らぬ。

◎翻つて、維新以後の政治家を見るに、彼等は元と勤王の名を以て起つたる人々である。勤王と云へば、陛下に忠勤を主とするの意味で、即はち其の政事は一向、陛下に誠忠なる所ろから發動せねば成らぬ。假りに、幕府の幕臣は勤王の心掛が無つたとして見て、明治の功臣のみ獨り此の心掛に富んで

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

居ると爲さんに、彼等が陛下に忠なるの心掛けは、幕臣が將軍に忠なるの心掛に優るとも劣ることの無いように有りたい筈である。然し、實際は殆んど比較には成らぬ。昔し『君のお爲め』と言つたるほどの感激が、今の明治の功臣の胸中に存在する乎。『お家の爲め』と云ふ言葉と、『國家の爲め』と云ふ言葉と、同じ程の生命がある乎。『君のお爲め』と言ふを聞けば、今に至るも尙ほ涙の落る心地がするが。方今の元勳とか功臣とか云ふ人々が『勤王』又は『陛下の爲め』と言ふを聞けば、何ゆえか甚はだ不快になる。

　死にともな、あゝ死にともな、死にともな、
　　御恩をうけし君を思へば、

と歌ふ聲は、千古の烈士をして腸を絞らしめることであるが、維新以後に、まだ此類の述懷をした功臣はあまり無いようである。

◎左れば、幕府の政治は、臣たるものが、君の爲め、お家の爲めと云ふ心掛から出たことが多いようで、隨がつて政治の運用の源頭に、殊勝なる感激の情が混つて居るが、明治文明の方今の政治家に於て、反つて其の氣品の少ないやうに感ぜら

るるは、殘念なることである。たとひ、其の場面は廣く、其の經營は宏大であらふとも、一種感激するに足る大切のものを欠乏する下品の政治は、所詮、人をして悅服せしむる事の出來ぬものである。

◎今に方りて國歩多難の際。陛下が日夜宸襟を悩ませ玉ふの御時、眞に奉公獻身の忠勤を擢んで、大御心の万一を安んじ奉つるものは、果して何人である乎。昔し、千代田の城には、隨分多くの忠臣があつたことであるが、巍峨たる今の宮城にも、之に劣らぬほどの忠臣はあることである乎。万乘一天の大皇帝に、御さびしきことてはあるまじきが、抑そも大御心の御慰さめの端となり得るものが、果して有ることであらふか。臣をして忠臣たらしめず、貞臣たらしめよと言ひた古人もあるが、願ことは、臣をして勤王家たらしめず、愛國家たらしめず、只だ忠臣たらしめよと言ふほどに感激せる人の多くあることであらふ乎。近年數度の政變に際して、所云ゆる元勳なるものの擧動如何んと注意すれば、逸早く逃出すものもあり、君寵を笠にきるものもあり、誰一人、割腹同樣の覺悟をもつて、決死の奉公を爲す仁も見へぬようである。前年、

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

三條公が、斯る際に當つて、憂慮の餘り絶倒せられたと云ふとを聞き、成程、此公ありと思ひて坐ろに暗涙を流したともあつたが、其后は殆んど其様なる話しを聞たともない。如何にも、才子風で、如何にも輕薄なるとである。たとひ微力なりとも必死の奉公を決心し、終り迄で、犬馬の忠を盡すと云ふ人が未だありさうなもので、夫は果して今の元勲であるのかと考へる間には、中心寂寥として甚はだ異様の心地のみがする。秋高く、暮近き時、二重橋外に立つて、遥かに宮城を拜するもの、誰か無限の感に迫つて、陛下の大御心を恐察せずに居られる乎。

◎茲に至つて、所謂ゆる公卿の方々は如何である乎と考へても、失望の事のみである。切めては、京都以來、御傍に近き人々には、田舎武士の成り上りとは相違せる感覺もありさうなものと思ふのである。三條公、岩倉公既に長逝せられたるの今日、吾人が夙に近衛公に向つて深く身を惜しまれんとを切願して居るのも、只だ此の微衷である。

◎陛下維新の大御言葉に、汝等只管ら天朝を奉戴して、敬して遠ざくるとをせず、偏えに親子の情義を盡せと申す旨の勅語があつた。憶ひ起すだに、感激の至りである。近頃ろ、切りに、忠君の說を言ふものも見へるが、何やらん甚はだ究屈に聞えて、頗ぶる人情にあはぬ所ろがある。若しも奉戴感泣の心に切まるならば、古人が「玉の御聲のかゝるうれしさ」と歌つたやうなる人臣の情を盡したいもので、今の忠君論は殆んど人を責めんとする丈けの議論に聞こえる。然し百聞は一見に如かず、千言は一行に如かずの喩えで、何卒、現に陛下の忠臣となる實行の人々が現はれて、其の殊勝なる所行が國民の感涙を催ふさしむるに足るものとなりたいとである。奉公忠義の美事は、活ける實例模範によりて涵養するより外に穏健なる育て方は無いのである。古しえの忠義も、久しい間だに段々と養成せられたもので、皆な鮮血を流したる實行の餘韻が響いたものである。

仲哀天皇曰はく

人の主としては、万民の心をもつて心とし、万民の家をもつて吾家とし、万民の衣服をもつて吾衣として、おのれなきを人の主といふ也。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

獵官熱解藥

◎小吏小官の小役人はイザ知らず、苟且にも一廉の大官に任ずるものは、果して何程の希望あつて就職する乎。近頃は、獵官と云つて、自から官を獵るものもある。此類の人は、官によつて何物を得ようとするのである乎。不審に堪えぬとである。

◎若し、月給の錢を得ようとするならば、官吏の給金は至つて手薄のものである。官吏となつて相應の成績のあるほどの者ならば、若し寄つて事業に着手せば、必らずモーカルに相違ない。試みに、民間諸會社の給料を見ても直きに分かる。大臣六千圓位の年俸は雜作ないとで、今では、大臣五六人分の年俸を取つて居るものが幾らもある。自分の營業の收入を勘定したらば、尙更ら洪大のことであらふ。夫故、錢が欲しければ、事業に着手するに違ひない、ワザ〱役人などになる馬鹿はない筈である。

◎たとひ又、事業などには向かぬ質の人で、所云ゆるお役人向の人だとして見ても、月給の錢を遺すと云ふとは、甚はだ難いとである。年俸幾らと云へば、纒まつて多いようにも見へるが、人知らぬ入費の掛るとは大層のもので、其上、お役を首尾よく勤めようとするには、其の道、其の途で、思ひ切つて散財せねば成らぬとがある。夫を爲ぬほどならば、所詮碌々の道が分らず、精神が徹底せず、人氣が集まらず、暫らくにして德望が衰ろへて仕舞ふ。決して功を遂げるとは出來ぬ者である。例へば、寄附とか、補助とか、研究とか、其他、名を沒し、形を隱した種々の方面に於て、多くの入用がある。實は、公人となつて、公役を取れば、錢の入るとは夥たゞしいもので、迚も支えきれぬ程のものである。人は無盡藏の如く取に來る、多少一々遣らねば成るまい。公人となつては決して自から榮譽の出來ぬほど金の入用なものである。其邊の事は經驗なき人の知らぬとで、よし知つても、又、其地位に登つても、其様な散財をせぬ人もあらふが、夫は宜しくない。宜しくない證據には、遠からずお拂箱となるか、左なくとも何の功もなく附着て居るので、公役を勤めるものの身分としては恥辱千万の事である。公けの給料は、もと其の公け事に使つて仕舞ふべきもので、本來、私用すべき筈のものでは無

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

いのである。かた〱は錢の爲めに、官に出づるものは、實際を知らぬ故で、餘程の損になることを思はぬのである。試みに、近年、一寸づつ官に出たものを見ても分るであらふ。出た爲めに借金をする、あとで大相困つて居る、迚も出る前の困り方とは違ふのである。此の困るのが當然で、もしも左樣でなくば、ちと面白くないのである。夫故、錢の爲めに官に出ると言ふのは、甚はだ見當違ひの事である。

◎左すれば、名譽の爲かと云ふに、成程、今の日本では、未だ少しは、官吏を名譽にして居るらしい。迚も明治二十年迄の比ではないが、兎に角、役人と言へばズット貫目が出來て、人もヘイ〱する。先づ名譽の地位とせねば成らぬ。扨て、名譽の地位として、此に就職したとすれば、即はち是れ困難の初めであることを覺悟して居るであらふか。名譽はある、然し乍ら、困難は無いとよふな馬鹿げた話が世の中に在者でない、若あらば、馬鹿殿樣風に、芋の煮えたも御存知ない場合のことのみであるが、夫は今の役人に當合らぬことである。既に名譽あると云へば、幾多の困苦、幾多の難儀が之に伴なつて居るので、もし此の困苦難儀を覺悟して、大相應に處置して行ねば、直ちに四方八方から罵詈讒謗される。左すれば、其の地位は名譽の地位であつても、其人に取つては、不名譽の地位となる、何にも名譽とは言はれぬのである。見るべし、大抵の人は皆な夫れだ。名譽の地位に登つて、ワザ〱人に馬鹿にされるので、喩へば、馬鹿囃子の男が、舞台に出て躍つて人に笑はれて居るようなものである。折角、出ねば善つたのである。夫故、官吏を名譽として出ると云ふのは聞えて居るが、扨て、實際、其人の名譽になつて居るかと言へば、大抵は疑はしいである。

◎且又、官吏を名譽の地位とするのは、宜しくないことである。名譽の地位は、人の羨やむ地位である。人に羨やまるれば之に競ふものが多くなるわけで、ツマリ在官者の難儀である。獵官熱には困ると云ふが、其の困る元は己れにあるので、自から名譽の地位らしく意張つて見せて、人の慾心を刺激すると云ふ、實は馬鹿な話しである。夫故、心ある官吏は、名譽を分配して、諸種の地位に分ち、人の渇望心を官邊に集中せしめぬようにする。立憲政治の功徳はコヽニあるので、其の工夫は幾らもある箸である。昔しと違つて、國家の器關が複

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

雜となつた。人才を用ゆべき場面が太はだ廣ろくなつた。之れ實に今の官吏の活用すべき處ろで、余程、政治は仕善いのである。然るに、ワザ〳〵官吏を名譽らしく見せ、昨日迄の書生が、今日からは俄かに立上つたように見せ、躰の貫目でも殖たか、身の寸尺でも伸たかと云ふように、ズット應揚に構へて『陛下の御信任を辱くして』などと云ふは、何たる馬鹿のとであるか。人民が信じもせぬものを、陛下の御信任などと自分で言ふ不心得があるか。なき名譽迄も名譽らしく見せて、人に羨やませ、夫で馬鹿者が之に競爭して掛ると、獵官熱の醜陋には堪へぬなどと言ふ。抑そも獵官熱は誰が煽ぎ立てたものだか、考へて見れば直きに分かる。

◎又、官吏となれば、錢の上では損な筈で、既に前に言ふた通りである。然るに、實際は之に反し、官吏となつて、中々溜めるものがある。大臣でも、次官でも、左樣溜まる筈の無い金を溜めて居る。奇怪千万の事である。之はたとひ、罪とすべき程の事は無いとしても、何か曰くのありそうなとである。然し夫は別事とし、官吏となつて斯く金を溜めるものがあるからして、又錢の上より官を希望するものゝ出るのである。

一躰、官吏となるのは、經濟上、損な筈であるのに、わざ〳〵經濟上から之にならふとするものゝあるのが即はち、先に宜しくない實例がある柄である。之も亦た、官にあるものが、他の慾心ある輩に羨やませるからで、ツマリ自から招くのである。現に官にあるものが、官と云ふものは、甚はだ損なものであると云ふ實例を示すならば、少なくとも、經濟上から之を羨やむものは大いに減ずる筈である。然るに慾得の上から獵官するものが彌よ殖えると云ふのは、官にあつて慾得を滿して居るものが多いからで、ツマリ自分で敵を招くのである。自業自得である。

◎抑そも、眞に官吏となり、天下の公役を勤めようと云ふ覺悟から考へて見ると、官吏ほど苦しくて、損なものは無い。昔しのように、一命を棄るとは餘り無いとしても、命同樣のものを棄てねばナカ〳〵出來ぬとで、實は迷惑千万の事だ。本當に役を勤めたふと思ふものゝ心から言へば、役に出るのは眞平御免で、成るべくは、逃れたい筈である。すまじきものは宮仕へと言ふが、眞とに宮仕へと云ふは、苦しいと計りである。免職になるのが苦しい所ろか、免職は眞に免職で、

實はホツト安心すべき程のものである。斯様に思はぬと云ふものは、元とお役の性質を辨まへぬからで、在官の責任を知らぬからである。苟しくも之を知らんには、自から進んで獵官などすべき筈のものではない。昔し、官に招かるゝことを恐れて逃げたものが随分あるが、夫等は、官に出ての責任を能く知るからして恐れたのである。然し假令ひ官に出ぬとしても、其面目に官の性質を考へたらば大抵分る筈で、もし自分が招かれたらば、斯々せねば成らぬ、其の苦しみは斯々である、我家政と、自から奉ずるとは、斯々せねば成らぬと、試みに思案して見れば、眞とに早や迷惑千萬で、可成くソンナ苦しい目には會いたくないと思ふべき筈である。左らば、中々獵官どころではあるまいに、どふ云ふ心術で獵官をするのか、甚はだ不思議だと思ふとが折々ある。

◎中には又、辯ずるものがあつて、イヤ夫は外の望みではない、たゞ抱負を實行して、吾所學を盡したい丈けだと云ふ人もあるが、夫はまた逆事のとだ。實際、事を成さふとすれば、局に當つては仕悪くいものだ。左なくてさへ、影を隱し、形を沒して、其の痕跡を消さふとして居るものを、ワザ〳〵其の地位に出で、其の職にあつて、而して大事を成さふなどとは、單純極まる考へだ。もしも、實際抱負があり、所學の經綸があるならば、之を當局の人に計つて、實地に行ふべき便利は幾らもある。自分で其地位に出ねば出來ぬなどと云ふ人は、出た所が出來るものでない。第一、試みに其人の經綸を聞て見るが善い、殆んど空論で、何にも實地に適はまるとでない。抑そも其の局外に居ながら事が出來ぬと云ふ丈けの伎倆で分つて居るのである。

◎左すれば、獵官熱の熾しい所以がどふも分らぬ。其の根本は必らずや、在官者の不心得にあるらしい。彼等が必竟之を招くからである。左すれば、今の獵官熱をさますのは、之に官を與ふるにあらずして、官にある人が一つ覺悟を換へるのである。左なくば、今の獵官者に官を與へても、又次の獵官者が八釜しい、殆んど際限はあるまい。所詮は、自個自利である。先づ、自から其の網を斷ち切り、自から囚はれの身を自由にするが善い。天下の獵官者は久しからずして解散する。左すれば、今の囂々も過半は靜かになる。政治も至つて穏やかになるとであらふと信ずる。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

○靈光り靈覺る

五關六根のみを覺の入口と思惟し、偏えに此に拘つろひて、外界を聞かんと欲す。知能の發動する際み太はだ狹きにあらずや。人、肉躰をもて其の靈を包む、其の衣裳は腐るべく、燒けべきものにして大いに望を寄せん價値はあらねど、如何なれば先づ尊貴なる靈を第一にして、其の光明の發揮を要とせざるか。靈の發動は、影もなく形もなけれど、其の徹すると幽けく、其の走ると迅し。假りに、千万里の遠きにゆくとも尙ほ感應すべし、況してや、近里吾と因緣を結ばんほどのものに於てをや。惟んみるに、万物皆な其の精靈を發散す、生けるものに至つて彌よ強く、人に至りて更に彌よ強し。人の精靈に感應せんほどの事は、中に就きて尤とも容易すきの道とはなす。豈に圖らんや、人世殆んど此般の用意に乏しく、大抵の人、故さらに靈覺を沒し、敢て淺海遲鈍の肉覺を動かさんとするに急なり。亦悲しからずや。試みに思へ、天下偉光の人を鑑別せんに、汝果して何等の標光によつて之を認ためんとする乎。或は曰はんずらん、其の行跡によると。又或は曰はんずらん、其の骨相によると。抑も此般の事固より輕ろんずべきにあらず、然れど若し此般の事を一位に置きて其念を掛け、別に尤とも緊要なる他の一事を欠かば、人の識りがたきとも亦甚だしからんとする也。何をか他の一事と云ふ、即はち彼の靈覺なり。凡そ人、其の品格等段のまゝに靈光を發つ、此の靈光は殆んど造作すべからず、亦故らに隱顯せしむる能はず。其の無意識に發し、其の無感覺に照り、一種靈光々の暗默をもて、二六時中、十方世界に向つて放つ、遂に自他奈何んともす可らざるもの也。而して、他の品格等段の之と相似たるもの相引き、之と相反くもの相彈く。人々初めて接見するとき、所謂ゆる第一感覺なるものゝ意識せらるゝは、此般消息の少しく漏れたるなり。當時人若し朗然として全たく無邪ならば、此の際の眞消息を解せんと、蓋し太はだ精しからんとする也。左れば、聖を認ためんとするものは、先づ我聖なる靈覺を磨き、賢を認ためんとするものは、亦先

づ我賢なる靈覺を磨く。凡そ我靈覺の磨かれて、自由に肉體の外に發揮するほどの品格にあらざれば、たとひ身外に輝々たる他の聖たり賢たる靈の發動するあるも、遂に之に感覺せんと難し。所謂ゆる諦認に難きの所ろなり。之を靈覺の眛と云ひ、又盲と云ふ。眛たり盲たる族の、物を見がたきは、物の存せざるにあらず、其の眼の開かざればなり。靈覺の磨かれずして、其の眼目の閉ぢたるとき、遂に他を認ためざる所以、之に似たり。左らば、人ありて問はんとす、他の邪想姦曲なる想などを諦認せんには、亦た其のねぢれたる靈覺に感應せん爲に吾に同様の靈覺を磨かんとする乎と。之れ謂はれなきとなり。邪想姦曲は人の性曲にして其の曲りたるものなり。もし人其の直きを覺るとを得ば、其の否らざるものを感ぜんは乃はち同時同様の活用に非ずや、何すれぞ別に其の曲れるを知らんとするの用かあらん。嗚呼、修めざる可らず、磨かざる可らざるは、かの靈覺なる哉。人もし之を等閑に附して、他の瑣々屑々たるに拘泥し、終生營役として而も第一等の事に得るなくば、寶山に入りて錙銖に酬るゝに似たり、遺憾何ものか及ばん。筆を寄す、同念同學の士、吾輩もし此段の事に疎漫にして反つて他の日常唯物の堺に惑泥せば、生を天地の間だに稟けて、現に呼息するの價値何文錢ぞと問へ。

○宗教界の曉色

教界衰ろえたりとは、佛者、儒者、神者、基督教者の一齊に唱ふる所ろなり。何によりて其の衰ろえたるとを言ふやと問ふに、在來の寺社會堂に人の集まると大いに減ぜし故と答ふ。單純なる觀察と云ふべし。余が知れる限りにて之を言ふも、今は教界一新して、鮮やかなる興隆、將に來らんとする機端に接わり、曉色既に顯はれ、烏雀まさに鳴かんとする光景なりと認む。天下、皿を延べて、安信平和の福音を仰望する飢渴のいよ〳〵迫まれるは更にも言はず、所ろ〳〵道を求め教をに練る幾多の法士あり、其の勤行の殊勝にして、其の太悟の近づける、人をして意を强ふして之を待たしむるの力あり。蓋し、新聞紙は政界の事に忙はしくして、此邊に趣味なく、寺社教界は偏えに其の集合に掛念して、無色の信徒を度外にし、世上未だ大いに注目するの機會あらざる間に、野に叫ぶ預言者は追々に生長しつゝある也。夫れ緇衣を着るものは、

殿堂にあり、麗はしき言葉は寺院に響く。若し只だ天籟の風然として下り、靈なるラッパの半夜忽然として聞えんとき、吾同胞は歡呼すべきや如何に。吾人は固く信ず、日本宗教界は曉に近づけりと。只だ其の覺醒するもの、遲速を問ふのみ、所詮、覺めざる人は稀なるべし。

○雛鷄家に上る

吾家に洋鷄を飼へり。階の低き故か、斷えず庭より飛上りて室内をあゆむ。追へば暫らく去り、亦直ちに登る。之は惡しき僻のつきたる也と勘辨してありしが、ことし其の卵を孵えして雛三羽を得たるに、雛も亦た始終家の內に登るを知れり。追へども〳〵直ちに登る。其の爲躰、尋常の鷄に似ず。宛がら本來吾家ぞと言わぬ斗りの躰裁にて、懼ろく樣もなく、恥たる景色もなく、一寸と下りては亦直ちに登り、至つて平氣なり。其あまりに平氣なるに不審して余も試みに數度び追ひて見るに、あなたも亦たかと言ひて微笑えむ躰にて、一寸と下り、直ちに亦登る。余つら〳〵其姿を見て忽然として悟りぬ。嗚呼此の洋鷄は元と鷄舍の內にて飼はれしものの種なり。西洋人の作くる鷄舍は吾等の住居よりも尙ほ宏大なるものなれば、彼等の眼には、之は小さき鷄舍とも見ゆるなるべし。雛は日本にて孵へりしなれど尙ほ其の氣品を遺傳するにやあらん。夫れ、一度び天堂に上りたるものは、到底亦た上らずしては止みがたき者よと、莞爾として欣こぶ。

○慨然立志

人の慨然として志を立つる時や、鬼神悚動し、魔靈閉息し、山川國土只だ一齊に瞠若たるの時なり。人もし此の時を忘れず、孜々地に鋭進し、石を嚙み、鐵を碎くの勇猛だにあらば、天帝慈しみを垂れ、聖氣感降し、必らずや其の志を遂げんと定まれり。古しえより、人一度び此般蘇生開眼の機會なくして、敢て新生涯に入るを得たるはなし。夫れ、生を斯土に稟けて、耳目鼻口を備ふ、古人の有する所のもの吾現に之を有せり、而して及ばざる所のものは何ものぞ。義烈忠憤の士に接しては深く反省す、高潔純理の士に見えては深く反省す、玲瓏徹底の士を望んでは深く反省す。反省して今ま我の及ばざるを知ると云ふと雖ども、及ばざるを知るは遂に及ば

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

ざるの謂ひにあらず。我もし到底及ぶ可らずば、天何の意ありて、我に其の及ばざるを知らしめ玉はん。天は吾に資を見せぶらかせ、徒爾に吾を苦しめ玉ふものにあらず。嗚呼、進まん哉〳〵。義を見て爲ざるは勇なき也、理想して試ろみざるは誠なき也。吾南洲先生は曰く、聖人を見て及ばずと思惟するは、陣頭に臨んで逃れんずる臆病者に同じと。

○感激

感激は、鐵の石を打てる瞬間時に發す。天地茫々、衆生濛々、人事役々たり、何の因緣と何の連係と相ひ接するを知らず。斷續常なく、去來定まらず、誰れか流轉の究極を知らんや。此時に當りて、一事物、一時機に、或る一人を打つ。鏘として聲あり、石火電光を發つ。古人曰く、一夫一婦と、世上の伉儷只だ二人者のみ、全世界中合ふ所ろ一人に過ぎず。彼の感激の緣も亦た斯の如し。寧ろ其の多くして汎なるを嫌ふ、只だ一大時機に、一大事因緣に、果然として熟し、以て人の終生を定めんを望む。感激の機や大なる哉。

女性の兩面

◎井上圓了博士は、妖怪學講義を普通學の中に加へたいと云ふお說であるが、若しも妖怪學を加へるほどならば、是非、「女學」を加へたいと思ふ所存がある。尤とも、女子の爲に是非加へたいと云ふのではない、男子の爲めに「女學」を加へたいと云ふのである。

◎昔しは「自から知る」と云ふとの困難を說いた人もあるが、男子が男子を知るは倘ほ容易なれども、男子が女子を知るとの難きは、駱馬が牛を知るとの難きよりも倘ほ難いやうである。今の男子は殆んど女と云ふものを知らぬ。知る所の女は、たゞ下女か、遊び女の類であるが、夫すら倘ほ十分には見屆けて居らぬのである。

尤とも、近頃は、詩歌的に之を瞭解して居る人が隨分ある。其人は、西洋文學にカブレテ、詩人の面白く歌つた所ろ

を讀んで居るのである。其上、まだ獨身で、色々架空の想像をつくり、あらゆる美妙の性質を寄せ集めて、之が即わち、女であると思つて居られるのである。女に取ては、有がたいようにもあり、亦、恐ろしいようにもある。何故なれば、他日飜然として、女を咒ふ所の人は、大率ね此般最初の空想的賛成家であるからである。

◎女に限らず、何ものでも皆な左樣であるが、殊に女の如く粧ほふことを主とする人物に對して、異性の大ザッパの男子たるものが之を瞭解しようとするには、是非表裏の二面を見ねば成らぬ。即わち、其の裏面を見、其の暗黑を見、其の極めてイヤな所を見、其の甚けだ僞わり易く飾り易くだまし易く變り易き所ろを見て、而して后ち一點動かす可らざる女性其もの、本領を察知したるにあらねば、未だ女を見たとは言われぬのである。

◎或る經驗ある老人があつて、中々世故に經歷した卓見家だ。其人が、未見未知の人物を視察する時には、是非、其の裏は如何なるものである乎と云ふことに氣を付ける。もしも其人のキマリがよく、愼しみがよく、事が成功するを見れば、必らず善い内助があるに違いないと云ふ見當をつけて吟味する風だ。隨分、女に取ての賛成家の方だ。然るに、フシダラで、キマリが惡るくて、追々貧乏して、失敗が續いて、段々深味に陷入るような男子を見ると、其のヨメは未だ逃げはせぬ乎、もふ驅け出して行きそうなものだと、始終睨んで居る。女に取ては、隨分ひどい批評家だ。然るに、不思議にも、斯く、女を賞めることと、女を下げすむことが、同時に、同人物によつて出來ると云ふものは、必竟、女性の二面を知つて居られる柄で、吾人は至つて其の鑑識に賛成して居るのである。

◎又、女は男と違つて、天成、操の固いものである。餘程の蓮葉ものでも、男子にはない程の一種の貞節を持つて居る。女は一躰情慾の少ない方で、男に比べると清潔である。其の生れつきが、貞操に富んだ方である。然し、或る一點の機みに近づき、或る一種の情に近づくときは、此の生來堅固の方の氣質が反つて反對の勢ほひを出し、迚も想像の出來ぬような過まちに陷入ることがある。あれ程の貞女が、あんな堅固な乙女がと云ふことのあるは、隨分、世に聞くことであるが、皆な

こゝの秘密である。此邊にも表裏の二面がある。

○女は、約まやかなもので、生れつき、シミッタレものと見へる。男は氣の大きなもので、女はどうしても氣の小さいもののように見へる。女が儉約をせねば、迚も外に稼手はないと云ふほどのもので、之は誰でも皆な知つて居ることであるが、此の女に、中々道樂で、やりつ放しで、大ざつぱで、男子すら驚ろくほどの不用心な所がある。夫は、何の女にでもあることだが、甘まく愼しみ隱して居るから、一寸とは分らぬ。然し、狐の尻尾を出す如く、折々露見さすことがある。慣れぬ人は吃驚することであるが、ナニ夫は在り觸れたことで、固より女だからとて、生れつき心の臓を小さく持つて來た譯でもないのである。况んや、女は平生、愼しみに愼んで居るから、時としては、癇癪一發の勢ひで、大々的、大ザッパの事をするともある。男子はビックリしては成らぬ。

○又、女に情け深い方で、生れ乍ら、石楠鋪的の情愛がある。悲しいとを聞けば、涙を落し、難儀を聞けば、思ひ迫ると云ふが、其の常で、之は誰も知つて居るとであるが、別に慘忍酷薄の氣質がある。夫は中々恐ろしいものである。幽霊に出ても女の方がコワイ。鬼となつても、女の方がひどい。凡そ、女の犯す罪は、數に於ては少ないが、其の慘酷なるとに至つては、迚も男の罪の及ぶ所ろでない。

ヅッマリ、之は一樣の氣質から出て來る兩面の表裏で、もと訝しむべきでも無いが、慣れぬうちは異樣に感ずるものである。然し、此の兩面を見たものでなければ、善く見たものとは言へぬ。一反の一物でも、裏を見ないで、品を定める人は先づ無い譯である。

女學生の雜話

女三人寄れば姦ましとも言ひて騒々しきが古來の定めなり况して家庭の窮屈なる制限を離れて學校に入り同じ年頃の朋輩集まつて朝夕晤語の外に俗念なし心配掛念なきにあらねどソハ明日の用意が出來ぬとか試驗の仕度が出來ぬ位ひの事にて固より大したる憂ひにはあらず先以て自由氣樂の境涯なり此の境涯にあつて年頃の仲間寄り集まり科業の仕度を了えてホッと一安心の折々はヲシヤベリせずしてあらるべきか

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

彼等が互ひに騒々しき雑話を試みて種々の批判をなし贈の上手下手より初めて着物の流行と及び先生の軟硬取締の加減其の風采其の居動其の僻其の失策に至る迄で續々話頭に上して絶笑して面白がるなどの事は例しなきにあらず若し古風の婦人之を聞かば喫驚して其の亂暴に仰天すべし鹿爪らしき教育者之を聞かば慨歎して我事已んぬなど失望すべし左らばとて嚴然として申し渡し今後決して斯の如き雑談する可らずと命令せんに流石がは女の事とてとつとして鎮まり其后頓と雑談を聞かず部屋々々打しめり閑寂としてしとやかなり則はち教師は意を得て、安心し我命よく行はれたりと少こしく自負し我生徒に限り在ふれたるヲシヤベリはなき也と信じ若し教育者の會議にてもあらんには直ちに出席して此邊の經驗は演説し密かに以て他に誇らんとするなるべし然るに事の實相は意外にて眞平の雑談は曾て止むことなし初は高笑して話したることが冷笑して話し初めは身ぶりして話したることが目を以て語り初めは講堂の中で話したるが布團の中でひそめくことゝなりたる迄にて實際の上に增減なし否な增減なきにあらず反つて悪性となり批評の調子一層酷烈となれり若し高笑慢語して一席のおしやべりに了りし時は話すものと聞くものと其の席限りにて忘れたるものが之を秘密にするに及んで其の意味深長になり其影響甚大となり其記臆深刻となり反つて初めに倍したる餘弊を遺すものなりたるを發見すべし凡そ物は秘密にすれば反つて樂しきものにて禁ぜられたることを人知れず試むるは一種別格の味はひあるものゆへおしやべりの樂しみも亦た一層の興味となるべし斯ありては折角書生に嚴禁したる命令の甲斐なきのみか其の害は反つて前日の比にあらず教育者に取りて苦々しき限りなれば苟しくも心得あるものは斯樣なる取締を爲すことあるまじ女は所詮おしやべりが好物にて此の好物は中々除きがたきもの也たとひ芋とお薩の好みは壓制して禁止し得るともヲシヤベリの好みのみは根こぎにせんこと難し既に難しと知りながら之が利導の方を考へ一面には亦た其の流し口を考へ之を清く之れを流し喩へば水を扱ふの躰にて處置するの外ある可らず此の水ハケを考へず單に其の水を涸らさんとする遂に得んや女學生を扱ふもの一勘考すべき所也。

口おいて五臓を見するざくろ哉。

婦人の犯罪

山形東根

夫れ男子と女子とは、日常の習慣、境遇を始め天性、職業等に於て各〻相異なるが爲めに、何事に於ても其發表する所に差異する處あるは、言を俟たざる事なりと雖も、今、犯罪の性質に就て少しく究むる所あらんとす。兩性間の犯罪の性質余何の問題は泰西にありては、已に專門學者の論議あれども、斯るは本邦の事實に徴して少しく述べんと欲す。

●男の犯罪と女の犯罪との割合　何れの國たるを問はず、女の犯罪は男に比較すれば甚だ小數なり、各國における犯罪者中女一人に對する男の數を見るに、（高橋一郎氏の說に依る）

普國	五人七分	ハンガリ	三人
西班	七人三分	英國	三人
墺國	四人三分	露國	八人一分
バーデン	五人三分	佛國	五人三分
ベルチック	七人三分	日本	十三人三分

とは年々多少の相違あるべしと雖も、大體此の如き形勢にして、世界中、女の最も從順なるは印度にして次は日本なるべしとの說あり、印度にては八九歲にして婚嫁し十二三歲にして寡婦となるもの少なからず、且つは佛教に於て女子を卑むるの習慣あり、日本、支那も亦た男尊女卑の弊風存すれば、東洋諸國は概して婦人は從順なり、從て犯罪者も少數なるが如し。

●女の犯罪と國の文明　西洋文明國に女の犯罪者多く、東洋諸國に少なき現象を以て、直ちに文明と女の犯罪との比例を立たんとを、穩當なる說とは云ひ難きも、文明の進步と共に女囚增加あるが如し、女子たるもの、智識進步し、權利を擴張するに從て罪過に陷るもの多きは疑ふべからざるが如し蓋し男子と女子とを問はず、詐僞、倒産、貨幣、官文書僞造私印僞造等の罪過を犯さんとせば、之に相應したる智識を要するとなれば、全く無學の輩には犯し得ざる性質のものなり果して然らば男女兩性共に、所謂犯罪者增加するも、其犯罪は文明の進步と共に身體に關する感情的殺伐の風減じて、狡猾なる智慧的の罪過を增加するものと知るべし。

●婦人の犯罪の少なき理由　世界を通じて婦人の犯罪は男

子に比して少なし、其理由を見るに大凡左の如けん。(一)生理上　女子は身躰柔弱にして手腕細く、横に太く丈け低ければ人家に忍び入り難く又は力量弱きが爲めに捕獲され易しと云ふ說は、慥かに一因なるべし。(二)習慣上　女子は幼にして父母に、嫁して夫に、老ひて子に從ふ三從の緣あり且つ其習慣あるは東洋に於て著るしく、且つ外に出てゝ公私の事業に從はず、閨門の中に消光するの習慣あり。(三)性質上　女は種々の狀態に遭遇すると少なく從て生活上に變化少なし、故に摸型的にして保守性に富み、人に從ふの心強く輿論には極めて動かされ易し。(四)世故上　東洋の道德は男尊女卑にして女を以て三界に家なきものと說き、女子と小人は養ひ難しと爲し、女は生れながら罪業深しと敎え、常に屈服するの敎訓を以て慣されたり。(五)生計上　財產は家長なる男子に屬して、婦人は其所有權なきもの多し、故に經濟上の込み入りたる事情に處するの要なく夫たり父母たる男の財產の幾分を以て家事を處理すれば足るが如き有樣なり。

以上の事情の減少したるは、則ち女子の敎育進み、位置高まり、權利の擴張せられし現象にして、之を西洋文明國の一部に認むべく、東洋に於ては未た右五原因の多少を包括せざるはなし。されば此等の事情の進化を指して婦人問題の進化と云ひ、文明國の婦人と稱する所以なり。但し此の如き進化が犯罪を增加するは、男子の場合にも應用し得るものとす。

右の如き五原因は、女をして室家主義たらしめ、柔弱にして人に從服し、羞耻心に富ましめたるものなり、然れども他方より之を見れば身躰孱弱と共に、感覺銳敏に、神經質の弱點あり、忍耐力少なく、激し易く、決斷に乏しきを致せり、而かも陰險の性質を養ひつゝあり。されば犯罪數少なきも、其性質は男子と趣きを異にして、研究の價値を存す。

◉**年齡と犯罪**　女の身躰上、感情上の發達は、男に比すれは概して早し。三歲の男兒と女兒とを比較すれは自ら明かなり。惡心の如きも早く發達して早く衰ふるは見易き事實なり統計年鑑に徵して累年の重罪犯を見るに、二十年以上三十年未滿者は第一位を占め、三十年以上四十年未滿は次位にして四十年以上五十年未滿は第三位、十六年以上二十年未滿は第四位にあり。蓋し妙齡の女子たる時は羞耻の心強く、優柔なり、(一)幼少の時は父母の監督の下にあり(三)故に性質上犯

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

罪を少なくせしむるも、長じて他家に奉公し悪友と交はる時代となり、發春期となりて放慾の振舞を爲すの時機となり、家庭教育の成否の結果の漸く發露する年齢となれば、犯罪も亦多し、之は男子にも應用し得べし。

●女子に多き犯罪　重輕罪被告人の罪狀に就て見るに。女子の重罪にては身躰に對する罪、財産に對する罪多く、輕罪にては財産に對する罪第一にして次は風俗を害する罪、次は静謐を害する罪、次は信用を害する罪なり、此の如き種類を統計すれば、

明治二十二年	九、四二一人
同　二十三年	一三、四四八
同　二十四年	一五、三一七
同　二十五年	一七、〇六七
同　二十六年	一八、四二一
同　二十七年	一九、一九五

等にして、二十二年と二十七年とを比較すれば、實に一万人の增加と云つて可なり。

婦人が、謀殺故殺等の罪を犯すは稀有なれども、尚ほ之れあるを免れず、明治二十六年には、家内不和親族利益上の爭ひにて謀殺故殺を爲したるもの百三十四人あり、貪慾にては八人、失愛嫉妬にては五人、總計百七十二人。明治二十七年には家内の不和親族の利益上の爭ひにて百三十八人、其他を總計して百七十九人あり。されば女が人を謀殺、故殺する九分通の最大原因は家内の不和親族利益上の爭ひにあるを知るべし。是れ日本婦人の特に着目すべき現象なり。

更らに違警罪に就て婦人の犯す所、奈何を見るに、密賣淫者最大多數なり、則ち密かに賣淫を爲し又は媒介客止を爲し拘留せられたる女、九千六百四十八人、科料に處せられしもの二千百人（二十七年度）二十六年には拘留者七千八百六十四人、科料、二千五百二十九人、年々增殖しつゝあるを見る、次は定まりたる住居なく、諸方に徘徊する女、及警察の規則に違背して工商の業を爲すもの等とす、違警罪に於ては、其數男子より少しく減ずるのみなるとは、最も注意を要す。

●教育上の關係　無教育者に犯罪多きは、男女共に珍らしからず、當然の事ながら、日本に於て重輕罪の女囚者を比較すれば、文字を知らざる犯罪女は文字を知る犯罪女の七倍に當るは常なり、即ち後者四十人あれば、前者は二百八十人といふ如き比例なりき昨三十年中、宮城監獄署に新入したる四

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

人の中に女囚の教育と犯罪の原因を調査したるものに依れば、

	家庭教育完全と認むる者	不完全と認むる者
竊盜	七人	五十七人
賭博	八人	三十六人
謀故殺		二十六人
違警罪		十八人

にして、其犯罪の原因は、家庭教育の完全なると、不完全なるとを問はず、共に遊惰より來るもの最大多數にして、七分通りは然り、次は惡僻より來るもの、次は、貧困より來るものなりしと云ふ。こは地方によりて異なるべきも、大に參考すべき事なり。

◉身上の有樣　男子にありては未婚者に犯罪多く、既婚者には少なしとするは一般なるが、婦人の重罪犯に就て見るに反對の結果あり。

		明治二十七年	明治二十六年
未婚者		一一五	一〇一
配遇者	子あるもの	一五一	一四七
	子なきもの	四五	四九
失配遇者	子あるもの	一四	一一
	子なきもの	四	五

右の如きは其一理にして配偶者にて子あるもの最上なり、次は未婚者、次は失配偶者の子あるものとす。蓋し重罪たる家計困難、親族利益上の爭ひ等、起りて生するとなれば、配偶者に多數の結果を示したるものと云ふべし、未婚者の次位にあるは、素より當然の事とす、未婚者は家計上、親族上等の關係薄きも、既に未婚者たるの故を以て、犯罪し易き性情、境遇に定むを以てたり。

◉結言　エリサベス、フライ云く、女子の事は女子をして爲さしめよと。今や出獄人保護事業を爲すものあれども、女囚に就て特に注意するものなし、一旦入獄して羞耻心を殺ぎ極めて陰險なる性情を有し來るも、未だ一言も女囚に及びしものなし。右の如く見來れば婦人の犯罪、女囚の性質に就ては、一層の研究を積み、之が改善策を施すの要あるを知らん社會事業は慈悲心と同情とを以てして、始めて成効するもの自今、高等の教育を受けたる婦人は、少しく社會の暗黒面に着眼し、婦人社會問題の解釋に怠るなくんば、獨り同性たる可憐の婦人の幸ひのみに止まらざるなり。

（右引證の統計は、二十六七年に依りたれども、此稿を起すの際、二十八年分の統計書机上になかりしを以て此に挿入せず、但し其性質論は誤りなきを信す）

評論

北米(民主)共和政の末路

(聯邦帝國とならん)

青柳猛

頼一子の曰く、北米合衆國近來の動作行爲や、まさに萬人の涙を注ぐべきものなり。「自由の夢想者は、これによりて其邦殿を失ひ、世界唯一の大名物は、これによりて其影を隱くすべければなり。されど古今興廢の跡に鑑みて、終始一貫せる攝理の大道に感觸せんとするもの、これによりて其赴くところの趨向を察すべし。ロッキー山下の民よ、徒に滴々遠き南洋のために憂ふるをやめて、コロムビヤと其女のために泣け。それ民主共和政體のものたるや、もと在上の政法にあらず、しきりに之に隨喜して上なきものとなすが如き、昧者の謬りに非ずんば、狂者の妄言なるべけれ。醫を僕とするもの、病に臨ろ。之を療さんとする、必ず他に招かざるべからず。民によりて民を治めんとするは、なほ病んで自ら療さんとするが如く、夫れ空なり。その未だ重からざるに當りてや、或は能ふべし。その激甚なるに及んでや、斷じて能はず。民主共和政や、之を簡單なる新開の國に行ふべく、之を複雜繁多なる舊古國に見るべからず。グリシヤはその始めに於て、民主共和政を行へり。されば一たびペルシヤ軍の來寇あるや、アレキサンダー大帝の出るを待て、專制君主國となれり。羅馬帝國も一たびは共和國たりしなり、されどシーザー現はれて主權を得たるを思へば、北米合衆國たるもの、豈に獨り長久に其民主政を續くべけんや。そが憲法を公布せる千七百八十七年より、僅く百年を越て、今や末路の徴影を見ること、之を羅馬共和國の四百八十餘年に比し、痛恨の極みといふべきなり。その今日に至るまで、綿々よく民主の質を維持し來れるは、建國日なほ淺くして、かのモンロー主義を確守せしがためのみ。彼れが所謂モンロー主義とは、現れが所謂鎖國攘夷の稍々文明の色づきたるに過ぎざるべし。すでに鎖國主義なり、故に外交のこと頗る簡素にして、敢て煩はしきことなく、野心家が、ようて以て乘ずべき間隙稀なり。されど、今の時は然らず、キューバに嘴し、フヰリピンに嘴し、遂に

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

布哇に嘴せり。而してうちには軍備の擴張をも唱ふる聲、愈高く、明年度は將に四千七百萬弗の海軍費を仕出せんとすと。この時にあたりて、一人のシーザーあり、一人のナポレオン出でば、其建國の基を覆さんこと、必ずしも最大難事に非ざるべけむ。

人は、合衆國の公義を稱す。されどこれ亦地上の一國なり。其民は神に非ず天使にあらず。この間一人の野心家の、大統領たらずと期すべけんや。合衆國の白堊館をして、永遠に彌勒菩薩の出現ます所たらしめんは難し。幸にして第一大統領ワシントンは古來稀れに見る君子なりしが故に、民主共和政の基を置き、のち相繼でモンロー主義なるものによるを得しと雖とも、もし彼れをして些かの私心ありて、シーザーの如くならざるも既にクロムウエルの如くならしめば、今のこと決して見るべからず。その民望の一におのれにあるを察して、竊に之れに乘じ、一族の幸榮を計らんは、素より易々たるのみ。米國は平和の國なりと稱す。されば其平和はモンロー主義より來れる鎖國の結果にして、其民はもと平和の子に非ず、多くの世界國民と共に、兵端を悦び軍功を崇尊するものなり。

ワシントン大統領は武功の故に其位に上りしならずや。降りて奴隷戰爭のことあり、リンコルンの弑せらるゝや、舉げられて大統領となりしもの北軍總督にして兵をやるに巧なる、將軍グラントならずや。近くはキユウバ遠征軍の總督を以て、新大統領たらしめんとするもの少なからずと聞く。是に於てか、我れは豫言す。今より一二百年を出でざるに、そのモンロー主義の破れたるを己れに利して、北米建國の國是を其根本より覆へすもの出づべしと。乞ふ暫く羅馬の帝國將たナポレオンの帝國が、其始め如何にして起りしかを思へ。シーザーもナポレオンも初めより帝王たらんとは稱せざりき。まづ人民に撰ばれてコンソル官となり、のち人民を眩惑して長くその職を襲ひ、遂に帝王たるに及べり。北米合衆國が其民主共和政を捨つるに至るも亦此の如けむ。まづ野心の人、武功の故に撰ばれて大統領となり、しきりと事を外國に搆へて巧に兵端を開き、民をして此間に於て陶然ラインの濃き葡萄酒に醉へるが如くならしめ、外交兵事のこと、繁叙錯雜、乃公にして非ずんば其のちを如何と、容易に去るべからざるが如しと粧ふ。かくの如くにして大統領の聖職を私するものあるを

恐れ、君子ワシントンは二期以上止るべからざる先例を遺せり。されど勢ひ是に至れば、民は種々便利なる口實を設けて其好先例を忘れ、統領の花々しき輝耀と甘言に惑はされて、長く其職に留らんことを希ふべく、自らは又其先例を知らざる眞似して、他國のこと一日も我れなかるべからずと示し、二期は三期となり、三期は四期となり、留任また留任遂に憲法を蹂みして、無期限の大統領となり、進んでシーザーの如くナポレオンの如く、エムペレーターよりエムペラーを作り、北米に君臨して一天萬乘の帝王と崇稱せられ、北米合衆國は、カナダ、メキシコ、及南米等の侵略國を合せ化して、亞米利加合衆帝國たるに至るべし。是れ、我が、モンロー主義の破れたるを見て、北米民主共和政の末路と呼ぶ所以なり。されど、北米のことや、羅馬佛蘭西は稍々その軌を異にし、各州自治の制度頗る堅なり。ために、新帝國と雖ども之を全く破壞し去らんこと決して容易の業に非ず。是に於てか、ステートを變ゆるにプリンシプリティーの如きを以てし、茲に一種の聯邦帝國をなすに至らんか。故に以爲らく、北米合衆國の將來は、民主共和政に非ずして、聯邦帝國ならんかと。

此くの如くに觀じ來れば、民主共和政や、世界に於ける最後の政體ならず、その歸着するところ、或は、全世界聯邦コスモポリタン大帝國ならんか。天に二つの日輪なく、宇宙に獨一の主宰者ある如く、地に二王のあるは許すべからず。この來らんとする大帝國の影なる今の各小帝國は、それ今日の最高政體なるべし。故に曰く、民主共和政とは、永遠に續くべからざる一時の權道に過ぎずと。されば三人寄れば文珠の智慧あり〻是れ帝政に附屬するに、内閣議院などの備へらるべき所因ならんか。されど、これたゞ附屬物のみ參考書の類のみ、之を以て主權の宿るところと思ふは過大の迷妄なるらむ。爲政の樞は專制獨裁にあり。然らざれば民を惑はし邦家を亂すこと夫れ激甚ならむかな。人は、グラッドストーンのよく平民の友たりしを謂ふ。されど、彼れの一大專制君主たりしを知らずや。

秋の夜の更けゆくかげはあはれなり
まつにかゝれる片われの月

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

教育界の新機運

曲浦鈞夫

河あり、其流るゝや、暫くは、潮また洪水の勢にて、これを逆流せしむることは出來るが、これは到底、逆であつて、順ではない。既に逆であれば、永く其儘にあるべきものではない。而も表面は逆に流れてゐても、下底の暗流は、いつも順流をしてゐるものである。潮のさす河流の岸に立つて見れば、水は上へ上へと溯つてゐるやうだが、扨て海に注ぎ下ることは、いつも止んではゐない。今の教育界はちやうど此有様である。明治廿年頃から後、種々の事情で、日進文明の流に逆つて、保守的反動の勢力が、時の運に乘じて、しきりと跋扈して、國家主義であるの、國體的教育であるはのといつて、一派の教育家が、社會の大勢に逆つたる教育論を担ぎ出して、國を開けば大に開くべき眞の道理に背いた致方をして今に及んだ。彼等教育家は、畏き教育勅語を崇奉すると見せかけて、實はこれを草履に穿いて、牽強附會な、得手勝手な議論を出して、却て大御言に泥を塗るやうな處置を致し、自分では、忠孝愛國の何物たるを會得せずに、無暗とこれ等の空語を振舞して、國運の進歩を妨げる。水戸派のやうな、保守頑固な學説に迷ふて、却て得々としてをり、自ら稱して、我はこれ眞に國家を思ふの教育家であると威張つてゐる。日清戰爭の結果は、大に國を開きて、自由教育を盛んにすべしとの戒めを與へたのであるに、彼等は、これを以て、いよ／＼國體を誇るの種として、誇るに足らざることを誇つてゐる。彼等は、文政が發達しない、大に之に刷新を加へなければならないといひながら、其實、如斯きに至らしめたるものは、彼等が迷説の罪である。何にも他に責め處はない、筆や口では尤もらしい事をいつても、感情では、却て社會の害になることを致してゐる。己れ己れを傷けて、其罪を他に嫁して、之を攻撃することは、扨て扨て教育家として、頗る不都合千萬なる處置といはなければならん。

さりながら、如斯きは、到底逆流であつて。社會の大勢の流

下に反いてゐるものである。されば、決して長つゞきのすべき筈がない。保守的反動が來た時から、暗流はいつも順通りに注いで、文明の大目的といふ江海に向つて注いでゐるのだ。如何に反動力がつよくても、大勢の向ふ處は、到底妨ぐるとの出來るものではない。さるが故に、教育の漸次に進歩して來たのみならず、社會が、馬鹿らしき保守的反動を許るさない今日となつては、僞忠孝僞愛國の、虚勢は、其逆勢をつゞける事が出來ない。開國進歩主義の新機運が次第々々と現れて來て、今迄表流だけ逆に押してゐた潮は、引きかたになつて、底流通りに、順下するやうになりかけた。教育に志あるものが、一般に、今後の教育は、扨て如何なり行くとであらうかと思ひ出して來るし、今迄の偏屈な國家主義などいふ逆勢の教育に反對する江湖の聲は、漸々に高まつて來かけた。一派の教育者は、さうは思ふまい、やはり我等の國家主義教育で、どこ／＼までも押し通さなければならん、これでなければ、日本國は盛んにならんと信じてゐるであらうが、それは大勢といふとに心が寄らぬからである。勿論國家主義といふものは、決して惡くない、否な重んずべきものであるが、

今の教育家の國家主義といふものが惡い。彼等は開國の國是に反して、社會の大勢に背くやうな致方を好むのである。理屈ではさうはいはんが、實際には然りだ。大勢がいよ／＼駟馬の勢を以て進み來る時には、彼等の言動は、たゞ笑ひものとなるばかりだ。弱々しい痩犬が、主人の門先で、人に吠へるやうな、淺間しい事は、出來る丈やるではあらうが、相手にするも馬鹿々々しい話である。此度の教誨師問題で、石川錬齋といふ本願寺の役僧が、己れの良心の責めをも顧みず、一錬齋無似と號し、忠孝を以て自任す、激切痛憤の情に堪へず」などいひても、たゞ笑に値ひする丈けで、考のあるものは、誰も相手にはしない。今の僞忠孝僞愛國の國家教育の忠孝論も、だん／＼同樣の運命になつて來るのである。先日の尋常中學校長會議の節でも知れるが、教科書自由撰擇の問題など、進歩主義の說が、大分勢力となつて來た。中學校に音樂を入れるや否やに就きての議論の如きは、實に馬鹿々々しく、校長仲間に音樂の何物たるやを知らぬものが多かつたさうで、世上有識者の笑ひとなる計である。高等教育會議でも、進歩教育主義を執る議員の議論は、なか／＼盛んで、

識者の賛成を値ひしてゐる。彼外人に小學校を設置するよを許可するせないの議論の如きは、否とするもの丶說は、條約改正以後の社會を前見もしない愚論であつたが、遂に中立者の彌縫論に決したのは、心あるもの丶見て歎息する事である。さりながらこの彌縫論の破れて、進步主義者の說の通りになるは遠からぬ事である。前途の大計も考へない、狹量な保守的國家論の如きは、到底自滅するに違ひない。さやうな不健全なる議論を以て、大勢といふものに、どうして反するとが出來やう。而も彼等が文政の刷新、教育の進步など叫びながら、却て之を控制せんとする有樣であるは實に悪むべきである。彼等は文政を攻擊するが、其實際は、今の文政方針の方が、遙に優等であつて、ずん／＼進步する政治であつて、彼等はこの進步を妨げんとするものである。

國家主義教育論者の如きは、政府万能力を信じてゐて、國民の教育は、行政の方針で出來ると思ふてゐるが、これも實に愚な事で、法令や行政で、なんで眞の教育が進步しやう。國家はすべて、人民の自治力の發達すると共に進步するものである。政府の力のみ仰いでゐる時代に、なんで有力な發達が出來やう。教育は殊に然りである。政府予に於て何かあらんとて、教育家たり、學校たるものが、どん／＼自治で働いて後に進步するものである。されば國家主義の教育家などは、眞に教育の進步に忠實なるものではない。大勢は彼等の跋扈をゆるさない。人も大分これに飽いて來た。反對者の聲が、公にさへ勢力を有して來た。新機運は既に向つて來てゐるのであると思ける。

新機運の暗潮既に勢力を增加して來てゐる。此に於ては、更に此動力を進める爲に、進步主義の教育家が、一大團結をなして、國民や、教育家の思想を、教育するの必要がある。有志家今や奮つて起つべきの秋である。

雜録

美神の餘影

有美

人多き谷、之を俗といふ。田舍の地俗氣滿々たり。これを以

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

て、樂園のかげ、倫德の住家となす如き、田舍珍らしき旅人のそら言ならずは、夢に樂む詩人の幻なるらむ。その產するところは、徒に手前を作る虛僞人の妻を盜み人の女を冒す卑陋なり。殊に、何のかのと壓制の激甚にして口やかましきこと、都慣れたる輩には、到底堪ふべくも見えず。是等のもの、素より市府に跡なしといふにあらねど、こは上つ方のお屋敷の廣ろ〳〵したる如く、その片隅に隱微あればとて、我等の鼻には、さして臭はざるなり。田舍は之と異る。手狹なる裏店の、いゝ、ながしもと雪隱など取ませあるに似て、汚さ言はん方なし。されば、夏期四十五日鄕里にありたる身は、この「俗」といふ炎々たる焔にくすべられて、親類緣者の誼など骨肉の訴へなどに責めたてられ、人くさき汚臭を悩るに至り、我れながら脫たゞしき心地のするも、無理なけれ。なは惡病の降なる時、臆惡き硫黃の焔に蒸されたる、昔信の如しとやいふべき。夫れ學者學を忘れ、道家道を輕ずるに至らずは、まことの學者眞の道家といふへからざる如く、人たるものその人くさき臭ひを脫するに非ずば、正眞の人とは稱へ難けむ。而して、人の香を脫するや、まづ人を解するに始まり、終に自然を解し神に入るに終はる。人間を解するものは自然に格るべく、自然を解するもの道、更に神に通じ機に覺るべし。玆に、人を解するの道、概ね三つあり。以爲らく、戀愛と困苦と忍酷は即ちそれなり。ユーゴーは忍酷に鑑みて人を知り、ジョンソンは困苦に處して人を解し、バイロン、ゲーテは戀愛を苛酷に苦んで、人を覺れり。世に是等の一つだに味はざる樂世家こそ、我の宿のものなれ。今の中學先生など、しきりに健全なるを求め願ふて、マコーレーなど讀ませ給ふも淺墓なり。我れならば、その昔きぶりさへクド〳〵しく、何れの篇にても、二度と再び見ん心を起すまじ。また惡くらしきは、今の道學先生なり。己れは脂濃き肉に肥え太りながら、指一つもて之を動かすことをすらせず、彼是と口やかましく、廣く且つ負ひがたき荷物を括りて、幼者の肩に負はす。これも戀愛困苦苛酷の一つだに觸れざるが源なるべく、其依ゆる所の實際に疎くして行はれ難く、淨土天國に住む天人天使の間にのみ行はるべき空談となり終ること、また止むなかるべきか。あゝ世に飲み込みの惡く、さとりの鈍き男女ほど、枯れたるもの冷きものはあらじ。此る不粹野暴の

俗塵をば、人くさき人とはいふなれ。我が學園に入るの前、この人くさき臭ひを一洗せんには、しばらく人を離れて自然に近くに如かずと、伴なりしところの細君は、しばし休養のためにもと其故山に殘し、輕裝單行、昨松島を訪ひ、この日黒田原に下りぬ。黒田原の地野州にあり、戸數百八十を越えず那須野原の一部方なり。我れ鐵路によりて此地を過る毎に、靈精の尋常ならざるもの、常に凝りて松樹鬱蒼の間に懸るを覺え、欽仰たゞならず、且つは温泉のありと聞けば、けふ一夜を特に此處に明かさんと決しつ。されば美神は常に隣れる村に宿り給ふものぞとエマルソンのいへるは、まことなるらし、まのあたり其顏に見えんとするは、明日を捕へんとする如くに、それ愚かに、虹に至らんとするが如く、それ空なり。之を仄に聞くべく、之を遙に望むべし。之れに相接し、その手を相振り相抱かんとするは、難しとやいはむ。夫れ美神の『時』には、過去あり未來あり、後あり前あり、されど、現在なく、『今』なるものあることなし、いま身自ら此の地を履み、その松籟に觸れ、其原に歩を運せば、車のあるまで、たなびきしと覺ゆる靈氣の、何れにか消えうせて、忽ち跡なき心地のするぞ、おかしき極みなれ。必ずや現はれ給ふべしと思はれたる美神も、如何に硯の水をたゝへ、筆をねぶりて頂禮歸命すればとて、そのなつかしき御影をだに映し給はず。しかはあれど徒に變哲學者の幻論に誤られて、黒田原に風景なしといふ勿れ。我邦山の景はあり、海の景はあり、瀑布の景河の景また多かるべし。されば、平原の勝景なるものに至りては、恐らく、たゞ一黒田原あるのみ。その朝夙く起き出でゝ、窓外鈴の音喧しきに、新聞賣の來れるにやと耳そばだつれば、さはなくて軒の風鈴なるなど仲々におかしく、晝も稍々寂氣になれば、何處より來りけん三味線かゝへたる瞽女の門を音訪ふあり。去りしアカデヤの世話物ならねば、その哀れなる糸の音に、己を交せて歌ひいづる古き戀の物語きくも、仲々ゆかしき心地こそすれ。夕暮どきは又一トしほにて、露結び珠をなさんとする頃、彷ひ出でゝ、其處に止り彼處にながめ、そこはかとなく松樹の間を縫ひ歩るけばえも言はれぬ心地のせられ、一面の芝草のそこ此處に種々なる株のあるがうちに、なにといふらん薄紫の草花咲き亂れ中に田舍娘にさも似たる女郎花の、黄泉に緣ある黄な粧ひし

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

てたてるなど、このところ南歐紫の流を汲む畫家ならば、しばし布をのばして、色を調ふべき景色なり。されど翳なく槌なきこの我れは、一つの株斷に腰うちかけ、例のバイロンとウェルテルとを出して、涙ながらに高吟し、せきくる時雨に眼を曇らしむるのみ。その石の如きピユウリタンの倫理をうけ繼げる、血なき涙なき杓子定規の社會制裁に呵責せられて、イタリヤはレモンの馥しく、あさ紅の乙女子多きウェニスに逃げのび「をさらばさらば、我がふる里よ」を詠へる君ぞ、あることよなく憐れに覺ゆれ。かく思へば、さて美神は矢張り隣りの村より踊り來給はず、何故となく物の哀はれのしみ〴〵と身にしみ渡りて、「我れ人間を恨まざらんがために、一の美神を作ひて、砂漠に家を搆へんことを希ふ」と歌へるかの人ならざるも、きのふ松島は舟路も遠く瑞巌寺に見たる探幽が筆てふ「白衣之觀世音」とたゞ二人、相携へ相並び、この人なき自然の清原に逍遙したき心地の禁ずる能はざるものあり。あゝ其やさしき肉豐かなる御頬、慈眼人を憐愍するの御顏、「子持觀世音」とでも讃稱し奉りたく、今に御姿忘れ難し。昨我が松島を訪へるは、そのながめを賞せんとに非ず、呉道子が觀音の石摺を得んとてなり。而して、またこの尊像を拜す、辱しとやいはん、あはれ之を我が戀人と仰ぎまつらば如何に、それ天地のものは、凡て配合をもてその美をなす、赤きは青きをもて益々美に、青きは赤きをもて愈々麗はし。されば、自然は人の配合を待て其美を幾倍し人は自然の配合によりて、同く其美を高むるものなり。けふ車を下りてステーションより原につけられたる徑路をたどりかつて仙臺より名ざゝれたる若松屋といふに至らんとすれば十五六とも覺ゆる少女の、手にさゝやかなる手籠提げて那所より來るがあり。髮は歐西の束髮風にたばねて、茶縞にやあらん粗末ながらも趣味多き色の羽織を纏へり。鼻筋の高く通りて色艶よく、氣品高き清楚たる姿、美神の御影とも見るべし。その顏禮拜するも倘は足らざる心地す、「若松屋はどちらですか」と問へば「手前で御座ります。たゞ今眞直に御出でになれば、二階造りの高い家で……お荷物を持ちましよう」と。あゝ五尺の有髯男子、麗美の女神とも見るべき手弱き處女を煩はして、その纎手を苦むるに忍びんや。「否々愛するものよ」と眼にものを言はせて、人しれず顏赤らめつゝ辭しぬ

嗚呼、その時の自然こそ、後あらざるの妙美なりけり。そのむすめも、月の日の光に輝くごとく、自然の光に輝て此くは麗はしく見へしなれ。それ自然と人とは、月と日との如く、互に關係あるものぞ。後其家に入りてより、折あるごとにかの麗顏に心の餓を養はんと、そこにこゝに彼女をのぞきて盗み見れど、さきの如き美は、亦何處にか消え去りて跡なく、たゞ美はしきところもあるなれどいふより言の葉も出でず。殊にはかの羽織を脱ぎ去れるときなど、その美はしささへ隱れて何の味なき心地ぞする。如何なる魔力の、その一枚にも足らぬ衣のうちに籠れるにや。嗟これも遂に亦美神の御影ならず、蝶の羽おとにも胸躍らせ給ふ美神は、矢張り我が來るを見て、隣りの村に逃げのび給へるなり。今夜洋燈をつらんとして、難有くもなつかしきかの少女、我が窓に入り給ふ。聲をかけて携ふる所の女學雜誌を二三冊與へばやと、カペンのかけがねさへはづせしが、俄に何となふ恥かしげなる思ひのさし迫りて亦能はず、たゞ爲めに釣鍵をとりてかけ與ふるのみ。人くさき臭ひを洗はんとて、態々この原にいたる我れの、まだ人くさきことよ。あゝ悲しからずとせんや。美神の影と見しも遂に人のむすめなりけり。然り美神は常に隣りの村に宿り給ひ、わが居るは人の家なるを、伏して十方世界の精靈に祈禱す、この少女をして、長へに邪魔の誘ひに陷らしむる勿れ。

亡弟の寫眞に歎ず

おうそむ

あはれ汝、汝が淸き靈魂や、今何處の邊にか彷徨へる。九天の上か、九地の下か。在處を知らんにも方士此世に在らず。たゞ汝が愛らしき軀は、鷲谷山、三尺の地下に、次第に腐れ行きて、蛆虫のあくに任せつゝあるを思へば、血肉を股けし予が身も刻々に殺がるゝの情ありて、悲しみに堪へず。曾ては汝の肖像だにも見るを得なば、此悲み幾許か晴るゝともやありなんと思ひしに、あやにくも、汝此世には多くの面影を留めず、たゞ唯一つこれを寫して他家に存せしものを、やうやく求め得て、復寫したるをば、此頃、父より贈られたるを見れば、忘れんと欲せし悲痛の念は、今更の如くに、還り來り、朝夕机上の對面は、よよいたましさの種となる。此

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の面影を寫せし時の汝や、如何に勇ましかりし。城東の游泳場に諸友と技を競ひつゝ、水波を蹴りて、快哉を叫び、日光に焦されて面背の澁紙に似たるを誇りとして樂しみたる、其壯健ある日の面影は即ち是なり。汝十二才の夏、彼水練場の終業式に師友と伍して、撮影したるは之なり。これぞ、最も勇ましき、汝が肖像なり。然るに、これや、終に唯一つ汝が在世の面影を留めて、永く骨肉のいたましき紀念となり了りぬると、予等いたく憾まずしてあるをうべきか。多人同寫の中より撰り出して、復寫したるものといへは、既に多少自然に背きたるべきが上に、予や久しく汝と居を共にせずして、汝が面影を忘れ、今、これを見るも、汝や實に如斯かりしかと疑ひ、ためつすかめつ、打守りては、實に何處か、それとはのかに、思ひ出ださるゝよしありて、愛着の情、ひしとこの照影にまつはるの感ありば、傍を放ち難し。肖像の似不似をたゞして、笑ひの種となすは、まとの人の生ける間の事にていま汝の如くに、既に他界の客となりては、これより外に、何處にか汝の面影を慕はん。肖照の眼、我を見ず、其口の笑まざるも、汝なほ世にあらば、これをさまでの恨みとせじ、また相逢ふの日を喜ぶべきともありなんに、汝は逝けり、また還らず、汝はあまりにも俄に、我等を捨てゝ去れり。天命とはいひながら、綿々の恨、安んぞ禁ずべけんや。ア、我等骨肉の世を了るまで、汝の面影の紀念として、見る度毎に悲痛を增さしむるものは、この不充分なる一葉の寫眞あるのみ。あはれ去りながら、我等遺れるものに、この寫眞に多少の念を叙ぶるとを得べきも、汝や、死してなほ死せざる處あらば、那邊り、父母兄弟の面影を見んとを熱求せんに、幽明、通路なく、悲だに寫して、汝に致すと能はず、哀哉。たゞ汝が幽魂、我等が知らざるに、髣髴として降り來りて、我等を見よ、汝が父母を冥護せよ。我等は汝の冥福を祈りては、また、この肖寫に不禁の念を寄せ、念ふては、汝が早世を悲悼せん、之を見ては、汝の在世を念々裡に活かして、終世の交りを叙でん。

ありし世のいさましかりし面影を
　つひの紀念を見るぞかなしき
あれかしとおもひしものをうつし畫の
　ありては更にかなしかりけり

時文

文界雜評

なにがし

◎坪內逍遙氏

「妹背鏡」以來、春のやおぼろ又は逍遙の名は、我文界に重きをなして、而して、細君以後、暫く、小說作に筆を留めて、文論に力を用ゐ、美論に筆を磨ぎ、其中また演劇改良に志篤くして脚本作をなすこと、尠からず。早稻田文學を以て、益を文界に與へたるの効また頗る大なり。然るに此文士たる逍遙君は、前年、專門學校附屬なる早稻田中學に教鞭を執るに至りし前後を轉機として、力を教育に致さんとして、殊に重きを倫理教育に置き、これに關する議論の公にせられしものも多少あり。而して彼中學に於ける、氏が倫理講話は、他に於て聞くべからざる底の、一種の特色ありて、巧妙且つ有益なりと稱せらる。逍遙氏たるものは、近年、其興味の漸次純文學を離れて、純教育に轉じつゝありしこと、世上は曾て之を感知せず、たゞ偏に近業の出でんことを俟望したるなり。逍遙氏如き文士が離去したるは、純文學の爲に甚だ惜しむべしと雖も、教育界に於て、坪內雄藏氏を得たるは、また之を賀せずんばあらず。而も坪內氏の彼を去りて此に來れるや、我社會の教育のなほ劣等にして、高尚なる文學を鼓吹する力なきを痛嘆して、文學の爲に、先づ嗜味養成の根底を築かんとするの篤志に出でたるものなるべく、然りとすれば、此擧また實に文學に忠なるの致す處なりといはずんばあらず。坪內氏の教育界に入らんとするや、其志想精神に一大變化を來したりと傳ふ。氏が前々の閱歷の如き、多少の非難なきに非ずと雖も、氏は教育家を以て任ずるに至るの今日は、自ら志行を嚴正にし、殆ど潔僻と稱すべき程なるに至れりといふ。自ら奮つて多年嗜好の喫煙を廢したるが如き、一時の感情によるに非ずして、教育家の體度を重んじたるが故なりとぞ。人々功名を思ふの世に當りて、既に隆々たる文名を略して、學閥多き教育界に入り、一私立中學に教頭として、孜々斯道に致さんとし、更に、また一小學校を起して、これに教鞭を執らんとを努める如きに至りては、坪內氏の爲に、これを偉なりとせざるを得ず。氏の眞面目はこれより、大に發揮せん歟。吾人は氏に向つて大に囑望す。

早稻田文學の廢刊は、文學の爲に甚だ惜むべく、而して世人は、之を見て、文界落莫として、労して酬いを得がたきの故にのみよれりと思ふと雖も、これは其眞底には、坪內逍遙氏が、思想の一轉化なるものあるを知らざるなり。

◎巖谷小波氏

紅葉一派の硯友社より出でゝ、一種の特色いよ／＼發揮するものを、巖谷漣山人となす。吾人は未だ此人の小說に於て、少くとも再讀を値ひするもののあるを知らず。然れども其少年文學に於ては、古今に秀でたる妙腕を有し、健筆を揮ふと稱するも敢て過言に非らざるべし。山人が一生の成功は實に此方面に在り。吾人の嘗て本誌上に、少年文學と漣山人なる一論を草したるもの、深くこれを信ずればなりき。之を信ずるが故に、山人の折々小說を草するを見る每に、彼は、なほ之に野心あるにやと疑つて、爲に惜しむ處あり。然るに近時聞くならく、山人また逍遙氏と等しく、純文學に興味を減じて、自家の特長を以て、少年の教育に從事するの志ありと。山人の爲に之を慶せざるを得んや。文士中に浮薄なる純文學の域を離れて、嚴正自ら持して教育界に入らんとするの傾向ある、社會の爲、好兆と賀せずして可ならんや。

◎漣山人と幼兒

漣山人の御伽譚は、幼兒に愛好せられ、また大人に喜ばる。これを馬鹿らしとするものは、高等小學以上中學程度の生意氣盛の男兒と、また學問一點張の學者となるべし。就中、漣山人の幼兒を動かすの力は大なるかな。山人嘗て華族女學校幼稚園を觀る。五十の幼童女等、譚の伯父樣と稱して、歡迎至らざるなし。其後日、吾人同園に赴くや、一女兒の如きは、予を以て漣山人と誤まり、切りに、猫はどなたが描くかと尋ねたり、蓋し少年世界なる御伽譚の挿畫を意味するなり。其後、山人また桂舟氏と之に赴き、小兒嬉戲の狀を寫す。幼兒等歡喜して彼等を迎へたりとぞ。其後また予、友人と之を觀て、園兒の爲に、漣山人の御伽譚中の

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

一二篇を朗読するや、唖々として、争て之を聴き、また其挿画を見んとせり。午食前に其一を読むや、食後に更に聴かんとして、弁当を終るを、平日よりも速に、午ち我周囲に来りて、それからどうしたのと熱心に聞けり。既にして予等の園を辞して帰らんとするや、衆児袂を扣へ、足にすがり、帰られん、帰へさぬと叫ぶあれば、いちはやく門に出でゝ、我等を送るものもありき。一児の如きは後に、保姆を介して、予に今度また来て、あのつぎの、お話を聞かしてと依頼せり。予の如斯に、園児等に喜ばれたるものは何ぞ、たゞこれ漣山人の御伽噺の朗読者となりしが為めなり。漣山人が、日本全国到処に、幼児の友として、彼等に愛好せらるゝとの大なる、これを以て察せらるべし。苟くも能く読み人を聞かすとなくんば其効なし。而してこれは又、理屈もいはず、罪なき事のみ、面白く可笑しくいひさへすれば、彼無邪気なる輩に愛敬せらるゝを得る、豈にまた楽しからずや。而もよく之に成功せんか、幼児の教育に於て、偉大なる功業を奏するを得ん、これ豈に一大快事ならずや。

（俳諧雑話はとゝぎす）○○○

予が病患に来れ、同郷の文士の多く従事せる「ほとゝぎす」の此頃のこなたに、驚いや高く鳴かんとするや、此方にての初音いかにと、珍らしく打きけば、虚子鳴雪、子規君等の俳句、交換、今更にゆかしく思はるゝぞかし。就中、小園の一篇は、十年相見ざる老旧子規君の近状を想起して、感慨の切なるものありしめ、去程に近く草廬を叩いて久濶を叙せんかとも思ふに至らしめたり。さりながら、新俳諧集講義の十一句の評釈は、諸氏の説中、子規氏に於て偏に聞くべきものあるのみにして、甚だ不満足を感ぜしめ、殊に、所謂松山派俳人の詩想の狭隘さばかりなるやに覚かしむ。如斯き所以のもの、諸氏の才を重んじて、情に淡く、理をとく、最大缺点は、宗教の観念と信仰とを有する心きに帰せずんばあらず。子規氏の「十律」な襟つ辞」の如き、才気溢る見るべしと雖とも、この友の如きは、子規氏か、己の悲惨なる体験に思ひを寄せて、多分の情と涙とを灌し来るべきものなるに之を見ずして、却て才気を見るは、実に作者の為に惜みなしとせず。子規氏の（野菜の図）淡石に巧手といふべし。

（1）　車に積まば七車　　舟に載すればこゝの舟

さッま、稲舟稲車、　動かにや嫁御も推しに来い。

重たきやそこらへうちすてろ

　　豊年ぢや、満作ぢや。

（2）　門田の落穂は照々に、　背戸の落穂は八後家に、

高田の落穂は小雀に、　深田の落穂は雁にやろ。

残る落穂は誰にやろ

　　豊年ぢや　満作ぢや。

（3）　われが稲蒔いてわれが刈る　女房ひとりに子が五人

手足が四本に鍬一ッ　お上の力も何ンにもない

年貢がほしけりや　持つてゆけ

　　豊年ぢや　満作ぢや。

第二句小雀と雁とないへる、第三句に「年貢云々」といへる、想像の働見えたり。さりながら、戦と思ふは、此俗歌に「車に積まば」「舟に載すれば」との語を用ひたるは、他につり合はず、むしろ「積んだら」「積もなら」「載せたら」「載せなら」といひては如何。また第三句の「女房一人に子が五人」といひては「手足四本に鍬一つ」といふと、語の釣合つきても、事相上はよろしからず。子が五人もあれば、親子共に働くといふ想を描起せざらんとするも得ず。されば子の五人を二人として如何。さすれば自ら分して一家を養ふとの意十分に見ゆるにてはなきか。なほ欲をいへば、更に一句を加へて、豊年を祝ひて、濁酒一杯に陶然の境を示すの想を欲ふて欲しかりき。

○「衷錦」の枯柳

ニコライの鐘は満都に響き渡れど、その音に因ある駿河台の正教女学校が出す「衷錦」といふ雑誌に、「枯柳」といふ新詩人のあるを、心づかぬ人多かるべし。この人、句読の所のもの、気韻風調概ね凡ならず、優に一頭角を顕はす。茲に抜くに最近號のものにて、湖句稍々形相子が「春やいづこに」に賦実せるあり。其句に日く

　　断口やさしき前髪や　流にのぞみ来たるゝ　春の柳の汝が風姿あゝ麗はしき

君やいづこに」　翠の袖なひるがへし　黙す鶯の花の香や　謡の模様の散紅

集　あゝ懐かしき君やいづこに」

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○島崎藤村氏の新作

新詩人島崎藤村子、夏期八十日、木曾山中風冷かなる所に籠りて、新作『夏草』を草す。十一月の初め、秋菊の色あざやかなる頃、例によりて春陽堂より出すべく、中に『農夫』の一篇あり、『マンプレット』の如き詩劇体にて自然の活動を歌ひ、殆んど百頁に餘りて集の中ばを越すと。社員某新篇出るを待て、『若菜集』『一葉舟』『夏草』の三つを一トからげにし、大に藤村氏を評隲せんと今より力み居れり。挿繪は下村為山氏とぞ聞く。

◎日本名勝記　下巻　麗水著　春陽堂版

日本名勝記下巻出づ。此度は濱松以西、中國、九州迄を記述せり。製本例によりて、美なり。文章は、麗水の得意の筆に成れるが、抑て此人の文章は、殊更に文字を工夫して、奇工を衒はんとするもの丶如く、されば、文調不自然なる塲處多く、且つ形容に過ぎて、肝腎の景色が、どんなのやら、人には解らぬに惜むべし。風土記などは、文字今少しく平淡にして、餘情あるを可とす。徒らに奇工を衒はんとするものは、文字に秀でたるものに非ず。

◎女界文摘雑俎　（本誌〆切まで）

◎女子の職につきて（家永えい子）　太陽第四巻第二十號
◎婦容といふ事を（鼓玉女史）　同上
◎獨身の福音　世界の日本第二巻第五號
◎女子の教育　（本多庸次郎）　花の園生第八年第十四號
◎慈善事業に於ける女子の位置（小崎弘道）　基督教新聞第七百九十一號
◎女學者と女子教育家（三輪田眞佐子）　女子の友第三十一號
◎罪惡に男女の差別なし（鹿山）　女鑑第百六十六號
◎西史逸話女神像　（天倪居士）　日本新聞連載
◎上毛の女子　上毛新聞十月六、七、八日
◎一家の奉公人　國民新聞十月十六日

片々

◎地方教育と家庭教育談　此頃新聞上に家庭教育上有益なる事項を掲載するの風ありて、東京大阪より初まり、漸次田舎地方に推し移りゆく有様見ゆ。

◎蜻蛉の子　一個の蜻蛉はその季節に至れば十萬個の子を産すといふ

◎歌の上手と牝牛の乳　瑞西にては善き聲を有して歌を唄ふ事の巧みなる牛乳搾りの女子（男子にても）をば爭ふて善き賃錢にて雇ひ入るゝを常とすそは善き聲をもて唄ひつゝ乳を搾る時は牝牛は之に慰さめられ少なくも五分の一だけ餘分の乳汁分泌するが故なりとぞ

◎鰈と和蘭女王　此程即位式を行はせられたる和蘭の少女王陛下が先頃瑞西に行啓あらせられたる際一尾の鰈を小包郵便にて陛下に贈りたるものあり之に添へたる書面に依りてそは和蘭の漁夫がこの漁業期に始めて一尾を漁し得たるその初物の鰈を献納せしものと知れしが女王にはいたく漁夫の志を嘉納せられ直ちにそを食膳に上し給ひしとなん。

◎世界第一の猫　米國の富豪ヴアンダービルト夫人はこの世界中にて最も美麗に最も高價なる猫を所有せる由なるがそは實に二百磅以上の價値を有するものなりといふ

◎鵞鳥を鐵道の驛夫とす　鵞鳥は獨逸國にては今日實用的に使役されつゝあり即ち獨逸人は鵞鳥を鐵道に使用し列車が停車塲に停車するの際高くその驛名を呼ばしむる事として驛夫の勞を省く事とせしに頗る好結果を得つゝありといふ

◎人の髮の毛　人間の頭蓋にはその一平方吋に殆んど一千本の髮の毛を生じ居るといふ

◎家畜の食量　馬は一年間にその體量の九倍の食物を要し牝牛も同じく九倍、羊もまた六倍の食物を食ふ割合なりと。（以上七件大坂毎日新聞）

◎教科書審査程度改正　文部大臣は十月八日を以て「師範學校尋常中學校高等女學校教科用圖書の檢定は自今其圖書の組織程度分量記事の性質誤謬の多少等につき大體の調査を爲すに止るものとす」との告示を發せり。

◎小學校女生徒の薙刀稽古　今回開設なしたる府下郡區聯合教育會に對し東京府知事は五ヶ條の諮問事項を出だせしが其中に「小學校女生徒に課すべき躰操及び遊戯は如何なる種類を以て適當とするか」の一項あり。教育會は此の諮問に對して委員を設け調査したる結果、目下牛込愛日小學校にて應用しつゝある薙刀等の仕合こそ適はしからめとて一昨日同校高等三年女生徒七名を府廳に呼出し委員等の面前にて試合をなさしめたるが、遂に是こそ然るべけれとの說委員間に盛なりといふ。

◎集古會　先月の集古會にては、慶長明治三百年間の婦女子に關する一切の古器物、古書畫を蒐集して同好の縱覽に供したりと。

◎世界に於ける一日の結婚數は、平均三千なりといふ。

◎女の富籤　露國のスモーレンスクと云へる所にては、富籤を以て女を引當てる方法を實行し居れりとの奇談あり。其は毎年四回期を定めて之を執行するものにて、一人の女に五千本の籤を發し、一本の價を一ルーブル（壹圓十錢）と定む。其女美人なるときは籤は忽ちにして賣れ行けども、容貌めでたからざるときは賣れ殘りて、頗る手古ずることあり。斯くて五千本の籤賣り盡され、籤主立會の上當り籤を定め其當人に女を與へ、尚ほ籤の上り高を持參金として、新郎に授くるなり。若し誤て籤主の器量女の心に叶るざる時は、女は破談を申入れ籤の上り高半額を受取ることを得るなりと。

◎流行衣服相場

男向き反物を擧ぐれば左の如し

白鹽瀬羽二重	十一圓五十錢より十三圓位
白本斜子	八圓五十錢より十五圓位
白斜子	六圓五十錢より十五圓位
白市樂	十圓より十六圓位
平御召	十一圓より十四圓位
縞市樂	十一圓より十七圓位
緊市樂	十圓より十四圓位
米澤市樂	十圓より十二圓位
諸絲織	十一圓より十七圓位
緊絲織	十圓より十四圓位
米澤絲織	七圓より八圓五十錢位
縞八丈	六圓八十錢より七圓五十錢位
本八丈	六圓より八圓位
大島風通	十三圓九十錢位
大島紬	十圓より十八圓位
米澤琉球	三圓七十錢より七圓五十錢位
節織絲	五圓九十錢より七圓九十錢位
名撰	三圓八十錢より六圓九十錢位
秩父縞	三圓九十錢より四圓五十錢位

男子向き羽織胴裏は左の如し

時代純子胴裏地	四圓八十錢より十圓位
純子給胴裏	六圓より十一圓位

又袴地は

仙臺平	十二圓より廿圓位
村上平	八圓より十五圓位
博多平	十二圓方十五圓位

男帯地は左の如し

綴男帯	十六圓五十錢位
綴珍男帯	八圓より十二圓位
博多男帯	三圓八十錢より九圓位
紋博多男帯	七圓五十錢より九圓位

婦人向きの反物は左の如し

風通御召	十四圓より十八圓位
縞御召	九圓五十錢より十二圓位
風通絲織	十一圓より十三圓位
白縮緬	十圓より十七八圓位
友染縮緬	十圓より十七圓五十錢位
小紋縮緬	七圓五十錢より十三圓位
更紗縮緬	九圓より十二圓位

婦人向き帯地は

繻珍廣帯	十三圓より七八十圓位
博多廣帯	十三圓より十八圓位
黒繻子廣帯	八圓より十六圓位
繻珍片側	三圓八十錢より十一圓位
博多片側	四圓より五圓八十錢位
黒繻子片側	三圓より六圓五十錢位
色繻子片側	三圓より六圓位
風通片側	三圓より五圓五十錢位

又男女向きの木綿物を擧れば左の如し

綿名撰	一圓四十錢より二圓五十錢
幼績織	一圓五十錢より一圓八十錢
絲入紡績	一圓八十錢より三圓
並双子	七十錢より一圓
細双子	一圓二十錢より一圓五十錢
瓦斯双子	一圓五十錢より二圓五十錢
木塲結城	二圓四十錢より二圓
綿結城	七十五錢より一圓
絲入瓦斯	一圓五十錢より二圓三十錢

（時事新報）

◎陝翁の遺言書　グラッドストーン翁の遺言は、語數凡そ二千にして翁が生前常に其身邊に備へ置きたる備忘錄に之を記し、書風甚だ美事なり。此遺言書に據れば翁の遺產は五萬九千五百六磅（即ち五十九萬圓）にして、書中の第二項に葬式の事を記して曰く、余は神の子として其無限なる慈愛に身を託するこそ唯一の希望なれば、埋葬に關しては一切遺族の爲すが儘に任ずれども、別に止む可からざる理由なき限りは式を質素にし、虛禮に走ることある可からず。又余は余の妻が埋葬せらる可き地に葬られ、墓碑に苟も賞讚の銘なきを刻せざることは、是れ余の固く遺言する所なりと。更に翁はハワーデンなる其邸宅を所有するものは、一家の首長として家族は出來る限りの情誼を盡し、和合を保つを以て其義務とす可きを忘る可からずと述べ、尙ほ終りに婢僕に贈與す可き形見を夫れ〲記し分け、殊に其愛孫たるウイルリヤムへは翁が生前就任したる諸官の辭令書に加ふるに、女皇より給はりたる新書々籍その他種々の印刷物を遺贈したる趣にて、此遺言書には千八百九十六年十一月廿六日の日附ありしと云ふ。（同上）

◎歐洲各國の結婚及死亡者統計　佛國は歐洲中に結婚の數最も少く離婚者最も多き國にして婚期に達せる千人の男女に就き僅に四十五組の結婚者あるに過ぎず和蘭は四十九組伊太利は五十墺國は五十一英、瑞、二國は五十二獨逸は五十三組あり離婚は佛國にては一年一年と增加し千八百八十六年には二千九百二十件なりしも一昨年には七千五十一件に達せり昨年の統計は精細のものを得ざるも九千を降らざるべしと又佛國にては二十六年より五十年迄の既婚婦一千人が產む處の生兒は平均百六十三人の割合なるに獨逸にては二百七十人蘇國にては二百六十九人白耳義にては二百卅一人伊太利二百五十一人英墺二國は二百五十八人瑞典愛蘭は二百四十人瑞士は二百卅六人なり此事情より推す時は佛人たるもの甚だ寒心すべきものありといふべし然かも人の自ら縊殺するものは死亡者の他國に比し少數なることなり佛國死亡者の數は一千人に對し二十二人半の割合なるも露國は三十五人伊太利二十八人瑞典二十二人半以上にして獨逸も二十三人ありといふ。（京華日報）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎郡部長官邸の私宴に藝妓を聘す　山梨縣水害地巡視の爲出張したる日根野侍従の甲府に入るや、時節柄とて市中の藝妓等には謹愼の意を表して、客の聘するあるも、音曲を差止めたる位なるに、郡部長の官邸にて縣官等、侍従を招待して、盛宴を張りて、三名の藝妓を招きて杯盤の間を斡旋せしめたるは、一怪事なりとして、山梨日々新聞は報す。

◎女學雜誌第四七二號社説の非改革の辨は現内閣及朝野の志士が改革〳〵と云ふの間違なるを論じ是れ政治思想の幼稚なるが故なりと云へり乖戻の人斯の如し其目も亦乖戻評論に支那改革士於さ町人女學突兵論外に婦女風俗雜誌集仲々面白し教育に躰格論外一篇其他隨感雜錄等對邊の學識ある婦女子には適當ならんも其以下に在りては稍々高尚に過ぐるが如し。(十月十三日佐賀自由)

時報

◎群馬縣の公娼存廢問題再燃　群馬縣に於ける存娼廢娼兩派の爭は多年の奇現象にして、知事の更迭あるごとに、兩派の爭を起しつゝあり。されば此度縣知事の更迭を見るに至りしかば、存娼派は機會として大に公娼設置の運動に着手し、草刈知事は云ふ迄もなく、内務省内にも同意する者ありて、隨分公許の運びにも至り兼ねまじき形勢あるより、斯くと聞きたる廢娼派は打捨て置くべきに非ずとて、先頃より反抗運動に關して、再三集合を催したる末、近日陳情委員を選定して上京せしめ、各方面に向て大に運動を試みると共に、同地方に在りては青年聯合會が全力を注ぎて、知事書記官等に其意見を陳述し飽くまでも存娼論を壓服せんと意氣込み居れりと云ふ。

◎めのこの勇敢義侠　北海道今回の水害は、同道未曾有の被害にて、石狩川、十勝川等、本支川一時に汎濫し、其沿水區域の廣大なる爲、無數の人家を流し、鐵道壞れ、田畑埋まり、人畜の死傷せるもの其數を知らず。中にも、石狩川本支流沿岸の各地は最も慘狀を極め、夕張郡由仁、角田諸村は其中心なるが、就中、角田村が他の附近被害地に比し、溺死者の數、意外に少なかりしに就き、一場の美談こそあれ。そは、土人アイヌの女は、通例メノコと呼ばるゝが、右角田村に、一人のメノコあり。性質、極めて勇敢にして義侠なりしが、洪水ぞといふより早く、一隻の獨木舟を乘り出だし、逆捲く濁浪の中を、かよわき婦人の手一つにて、縱横無盡に乘り廻し、溺れ流るゝものを片端より救ひ上げたる數、百二十餘名に及びたれば、此の一村のみは、他村に比して、溺死者甚だ尠なかりきといふ。惜むらくは、交通斷絶のため、此婦人の姓名等、詳細の事を知り難けれど、身分は、渡守を業とするアイヌの妻なりといふ。何れ事情判然せし上は、紅綬褒賞の御沙汰あるべしとぞ。

◎貞婦受賞　德島縣海部郡阿部村坪根ツルは、貞節の廉を以て左の賞を受けたり。

海部郡阿部村　坪根ツル

夙に夫を喪ひ寡居して其貞節を全ふし貧困に處しも倍々其家業に精勵し又能く子女を成育す剰へ實父は失明實母は多病にして飢餓に迫るも之に事ふべき者なきを以て兼て孝養を盡すこと十數年一日の如し其操行洵に奇特とす仍て爲其賞金貳圓下賜す

明治三十一年十月四日

德島縣知事從四位勳五等　山縣伊三郎

◎藍綬褒章下賜　教育上の勞効顯著なる廉を以て去月十六日賞勳局に於て藍綬褒章を下賜せし者左の如し

福岡縣士族　正木昌陽

資性温厚母に事へて孝弟舊福岡藩學修猷館の教職に擧られ傍ら家塾を開て力を子弟の教養に致し廢藩後一旦解散となるも講學育英の事を廢めず明治十五年に至り亦私學舍と改稱し講筵を開くこと日に十回而して一定の授業料を徵せず刻苦指導茲に五十年前後教を執る者四千餘人知名の士を出すこと亦尠しとせず今や齡古稀に及ぶも尚ほ孜々として怠らず啻に教育上の勞效顯著なるのみならず德行卓絶家庭雍睦而に闔縣の師表と爲すに足る依て明治十四年十二月勅定の藍綬褒章を賜ひ其善行を表彰す

◎孝子受賞二件　埼玉縣北葛飾郡栗橋町の久松新三郎は母に事へて孝養を盡くし此程同縣知事より金五圓を賞與さる。山梨縣中巨摩郡大鎌田村の小林喜八父母存に侍るや不斷怠りなく死後生前に於けるが如しとて、同縣知事より金一圓五十錢を賞與さる。

◎孝子　讃岐丸龜の齋藤友二郎(十五)は家赤貧にして、一人の弟と共に飲用水を賣捌き居る者なるが、病床にある老父に口に適する品物を買求めて、看護怠りなしとて、知事より金六圓を下賜さる。

◎仙臺の女丈夫逝く　仙臺市清水小路氏家直子といへば、同市民を始め其名聞ゑたる女丈夫なりしが、去二日藥石効なく遂に逝去せられし由。同女史は常に神佛を敬信し、且公共心に富みたる人にて、曾て伊達家より松島瑞巖寺へ寄進に係る各御先祖の御像十一幅、維新後何者の所爲にや表裝を去り切れ〳〵になり居たるを、過る明治廿四年七月南天棒禪師特命住職以來、女史婦人連中をして該畫幅を表具師に命じ表裝を調へ、供養を營ましめしを始めとし、次て同禪師の爲に瑞

嘗て什寶と唱ふる書畫像け類料五百餘點を募集し、後父日清戰役の際には婦人一萬餘名の生髮を贈ち、大船の錨綱を製し之れに一首の和歌を添へ、時間田前知事の手を經て海軍省に獻納すると同時に、瑞巖寺内に一万餘名の爲に大木碑を建て大供養を營みし事等、其他善行枚擧に遑あらず、世間同女史を稱して女沼浮と云ふ、故與三郎翁に比したる程なりしと(京華日報)

○忠僕松本五平　同志社に年久しく召使はれたる松本五平なる人は、勤仕以來二十年の長月日の間だ只だ其社死去の前に一日缺勤したるのみならず。常に同校生徒には自身の小使たるを忘れて、親身も及ばぬ程に何癸と無く信切を盡し、講師職員にも忠敬の赤心を盡して倦む事なくして、世には十年一日の如くと云ふ例ぬもあれども、此僕こそは全く廿年一日の如く忠勤を抽で來りし上へ、近頃ろ追々老衰して思ふ儘に業務の取れざるを患へて、自ら職務の事を辭し出たる程の特志家なれば、當更の如きも事務所より暑中の休暇を與へたるも、當人は自宅に休養せんよりは、永年勤め續け來りし學校に在る方こそ、我が喜び希ふ處なりとて、休暇をも取らざる程なれば、事務員を初め校友會員にも其篤志を感じ、然も當人の老衰してまた別れたるを憫みて、今回夫々の委員を定め、多年の忠勤を存生中に表彰す可き計畫ある由なるが、校友會にても百五十圓近くの寄附金を集めて贈られんとし、追て今日の同志社諸故の人々の寄附金を集めなば、莫大の額にも達す可く、殊に同志社よりは永眠の費用として給表あらんことを京都府廳に稟請したりと。(國民新聞)

○佛教京城に　今代東京召車の十時にて、女學校設立の議あるよしなるが、此程同女史等は畿内各宗の淑女名校を小學校に會し、其の協議會を開きたりといふ。(佛教婦女會は發行)備前上道郡なる佛人婦人會にては、今回花の十字と稱する婦女の雜誌を發行する由。

○佛教の私立幼稚園　京都の各宗本山協同一致して、市內上下兩京區內に、幾多の幼稚園を設立せんとて、目下其協議中なりといふ。

○孝子一束　孝女　新潟縣中蒲原郡大鷲村四川忠兵衛長女ユキ(二十七歳)は一家の孝子　鹿兒島縣肝屬郡高山村新富安吉の子女お八　孝女　山口縣吉敷郡山崎村の深川治郎の娘きく(十二歳)(以上二件東京朝日新聞)　自婦と孝女　島根縣八東郡本庄村大字本庄町不破喜右衛門の妻イワ(七十一歳)と其三女ハン(三十歳)(松江山陰新聞十月十五日)の自婦　鳥取縣岩美郡面影村大字今在家村佐々木善吉(二十二歳)の妻ツネ(鳥取新聞十月十五日)　孝子の聡明　北海道石狩國夕張郡角田村字ポロツ住武右衞門の長男光太(十二歳)(中央新聞十月八日)の築上郡の自婦　福岡縣築上郡角田村大字松江田代伊三郎妻トヤ(福岡日日新聞十月十二日)の花野女史護を郡村の孝子に贈る　孝子は福岡縣中原郡上町字新開庭野村吉長男千代太(十六歳)(福岡日日新聞十月八日)の少年の鑑　山梨縣民新聞　人矢野市次郎(山梨民報十月十四日)の孝子　福井縣丹生郡志津村瀧波席部李作の子伊八(名越自由新聞十月十一日)の殊勝なる同胞　松山市一番町十九番戶字高某の長男忠治(二十一年)長女松子(十六年)次女ナナ(十四年)三女シカ(十二年)(海南新聞十月十三日)孝女　東京洲崎辨天町二丁目坂井某の養女坂井タマ(十六才)(東京新聞十月十日)孝子の祭典　明和年間京都府葛野郡西ノ岡字川島に住みし孝子儀兵衛の祭典村長以下小學生徒等奉行す(日出新聞十月十二日)の孝女辛島みす　埼玉縣秩父郡大瀧村大字中津川辛島喜平の二女みす(廿二歳)(中央新聞十月十二日)の篤懸家　宮崎縣兒湯郡本城村字高城町宗像幡水男文志(内外新報十月十日)

○バッツシュ女史　一昨年以來万國婦人禁酒會第七回世界巡回遊説員として、我邦滯在中なりし、クララ、バッツシュ女史は、今回緬甸國へ派遣せらるゝこととなり、十月五日、遂に我邦を辭して、横濱を出發せられたり

○東京大學第一高等學校聯合青年會館開館式　本月十七日午後二時より同館公堂に於て開かれぬ。館は本郷彌生坂上の台地にて眺望絕佳、稱して山上の城といふ。スヰフト、ミツー兩氏の盡力により米國有志青年の寄附大凡九千圓と内國の寄附金寄宿舍料とによりて成り、更に會員共同宿泊のため建てたるものにて、公會堂あり食堂讀書室浴室等の備へあり、特に三階を學間として斯職簇させるなど大に見るべし。式中本多教師の祝辭あり、安藤太郎、キャストリース、海老名ミラー等來賓の祝辭あり。フェリス女學校の林さだ子君、佐藤豹子女史がヒャーの伴奏と共に唱歌し、大に來會者を動かせり。かゝる唱歌者は恐らく今日之を配が間の仲間にもさせることは難からん。されば惜むべきは、その教育に一種の耳障りなる癖あること、上手の聞き方嘗を得ず、實はしき調育の、折々歯に妨げられて口中に籠り、充分にエキスプレッションの活動せざることあなり。安藤氏が開成所のことを説て、「福田(孝平)先生などは酒が七分で學問が三分なりし」と云ひしと、キャストリーブが直譯化したる英語に、我の古軼を引ての話など人を笑はせたり。終りて茶菓の饗應あり、散せしは五時の頃なりき。なほ、同館に丘上なるを以て、甚しく當り勁風の吹れを防ぐため石垣を築かざるべからざるも、今や全く餘金なきを以て、特に以下篤志家の寄附を仰ぎたしとのことなり。

大君のいます御城の外濠に
小舟うかべて玉藻かるなり

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

明治女學校受捐金廣告

金弐百圓也　福岡縣　安達仁造君
金百五十圓也　同　貝島太助君
金百圓也　同　平岡浩太郎君
金百圓也　同　許斐鷹介君
金百圓也　同　麻生太吉君
金百圓也　同　安川敬一郎君
金百圓也　同　山本貴三郎君
金百圓也　同　衣笠景德君
金百圓也　同　谷茂平君
金百圓也　同　飯野双十郎君
金百圓也　同　石野寛平君
金百圓也　同　久良知寅次郎君
金百圓也　同　松本イソヤ子君
同　健次郎君

金七十圓也　同　竹腰虎太郎君
金六十圓也　同　杉山松太郎君
同　ユキ君
金五十圓也　同　中野德次郎君
金五十圓也　同　宮崎儀一君
金五十圓也　同　瀧谷角藏君
金五十圓也　同　瓜生卯太郎君
金五十圓也　同　帆足豐吉君
金五十圓也　同　井上友次郎君
金五十圓也　同　秋田鍬三郎君
金五十圓也　同　谷口與四郎君
金五十圓也　同　山本周太郎君
金五十圓也　同　和田貴三郎君
金三十圓也　同　伊藤傳六君
金三十圓也　同　堀三太郎君
金三十圓也　同　山縣宗一君
金三十圓也　同　安達盛照君
金三十圓也　同　海老名一郎君
金三十圓也　同　作中大八郎君

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

明治廿九年三月十九日遞信省認可

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

明治廿九年三月十九日遞信省認可

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY